

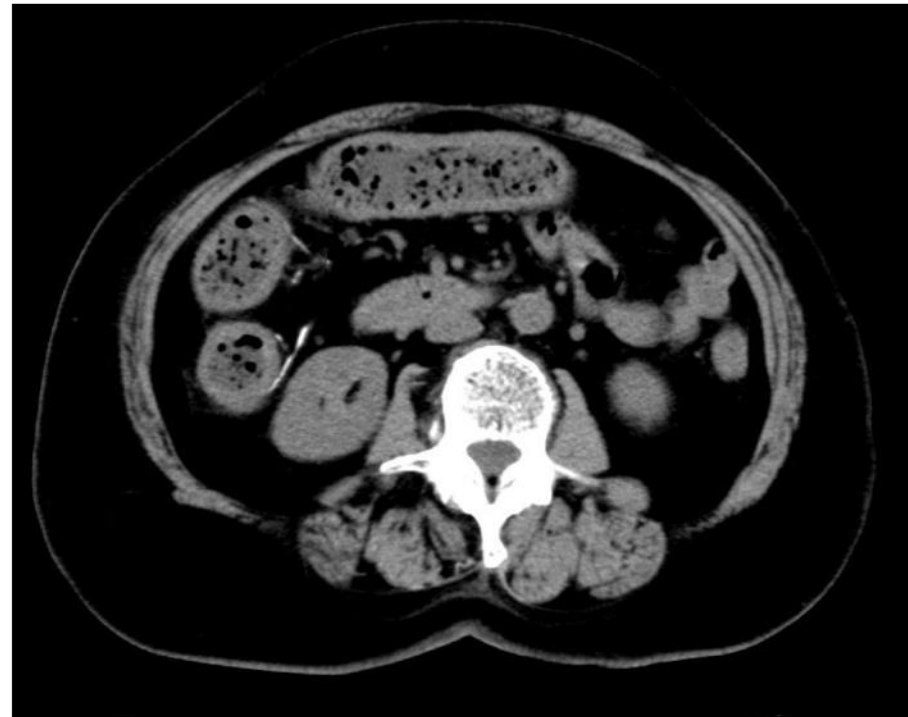
結腸病変

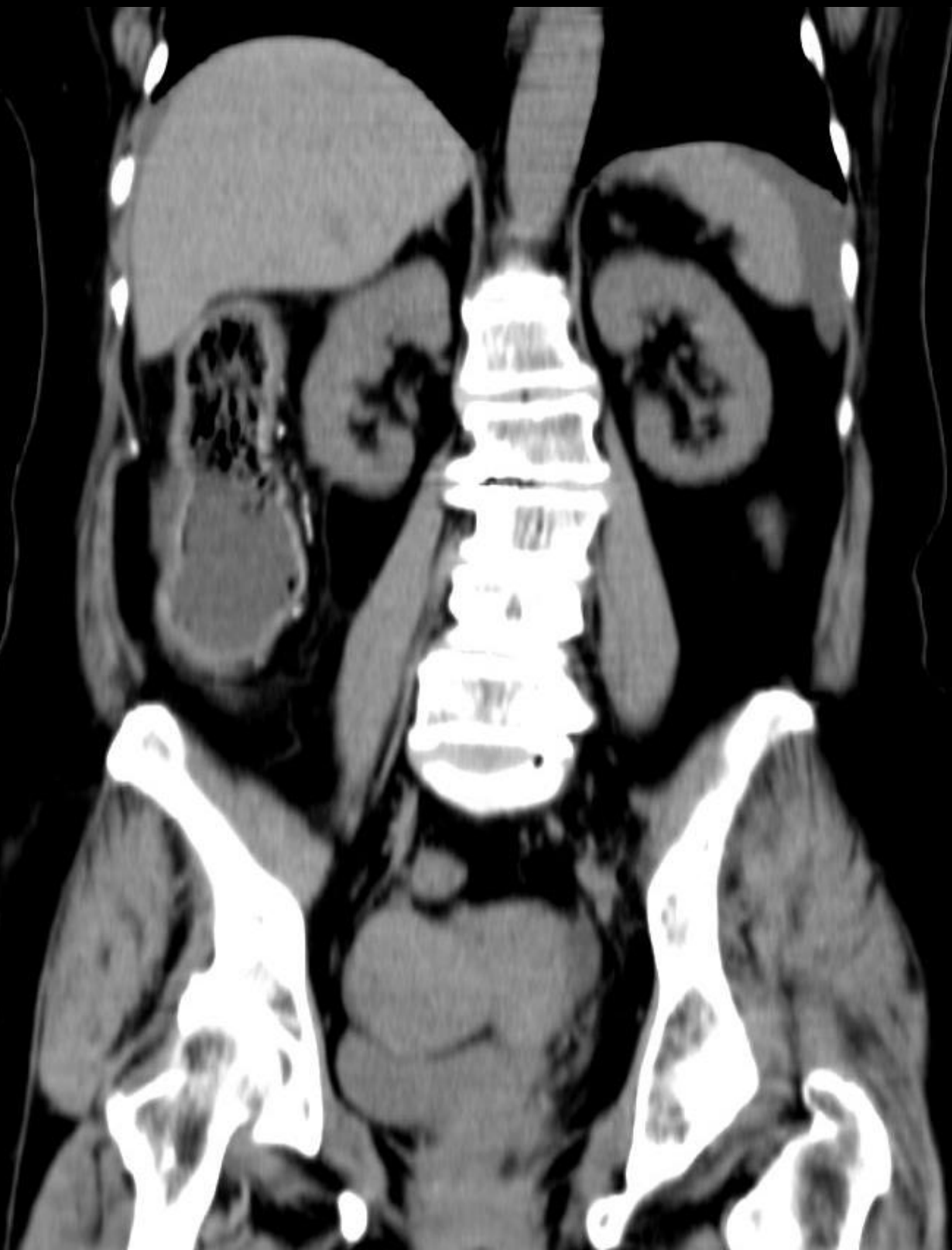
岡山済生会総合病院
能勢聡一郎, 谷口恒平, 浜家一雄

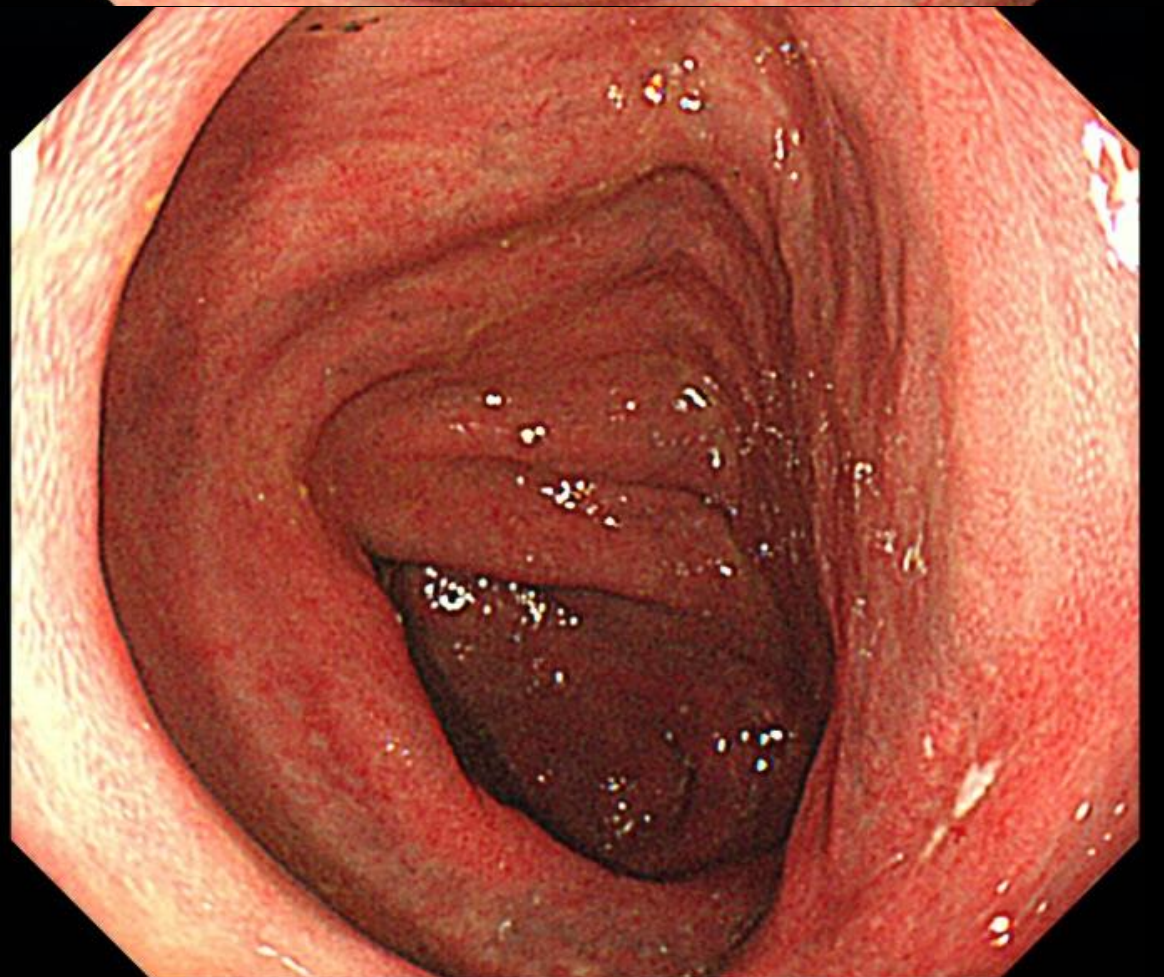
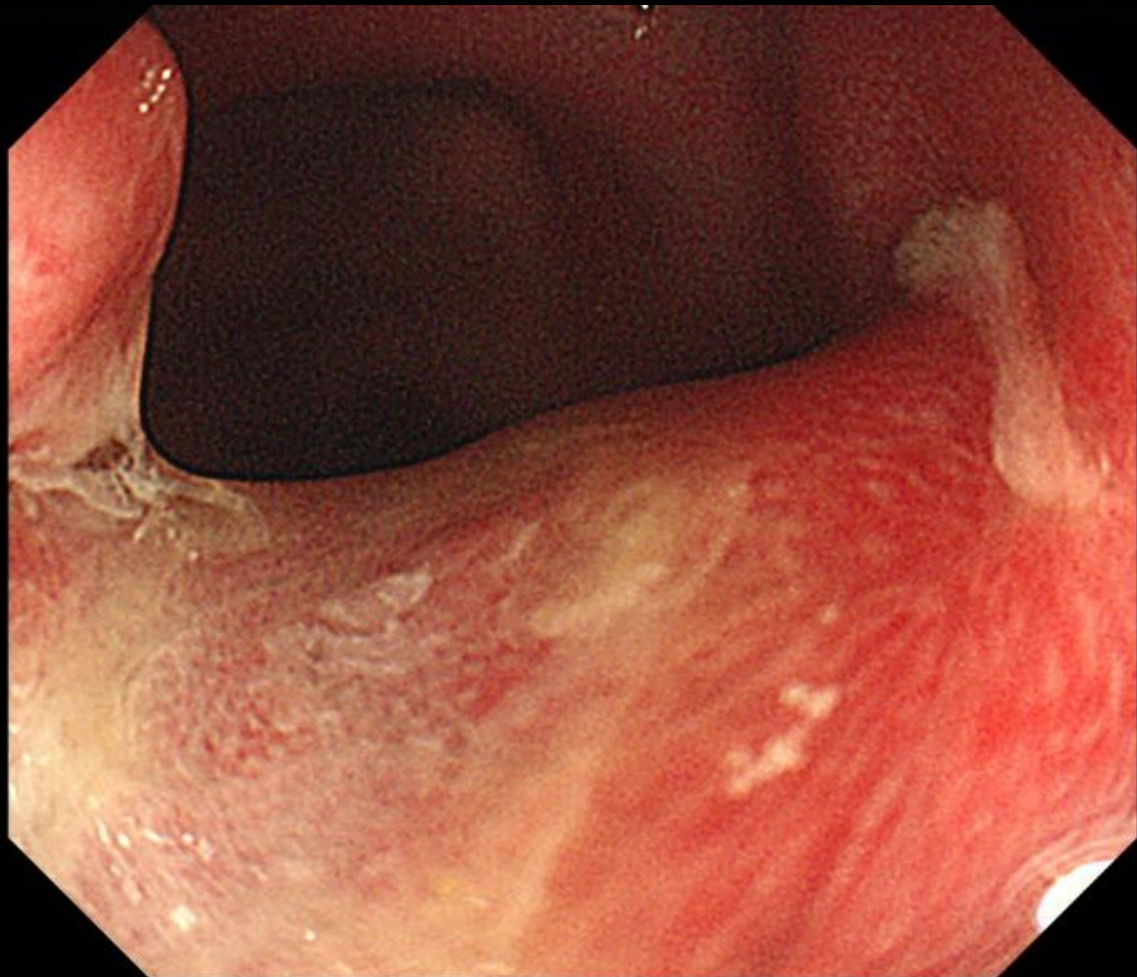
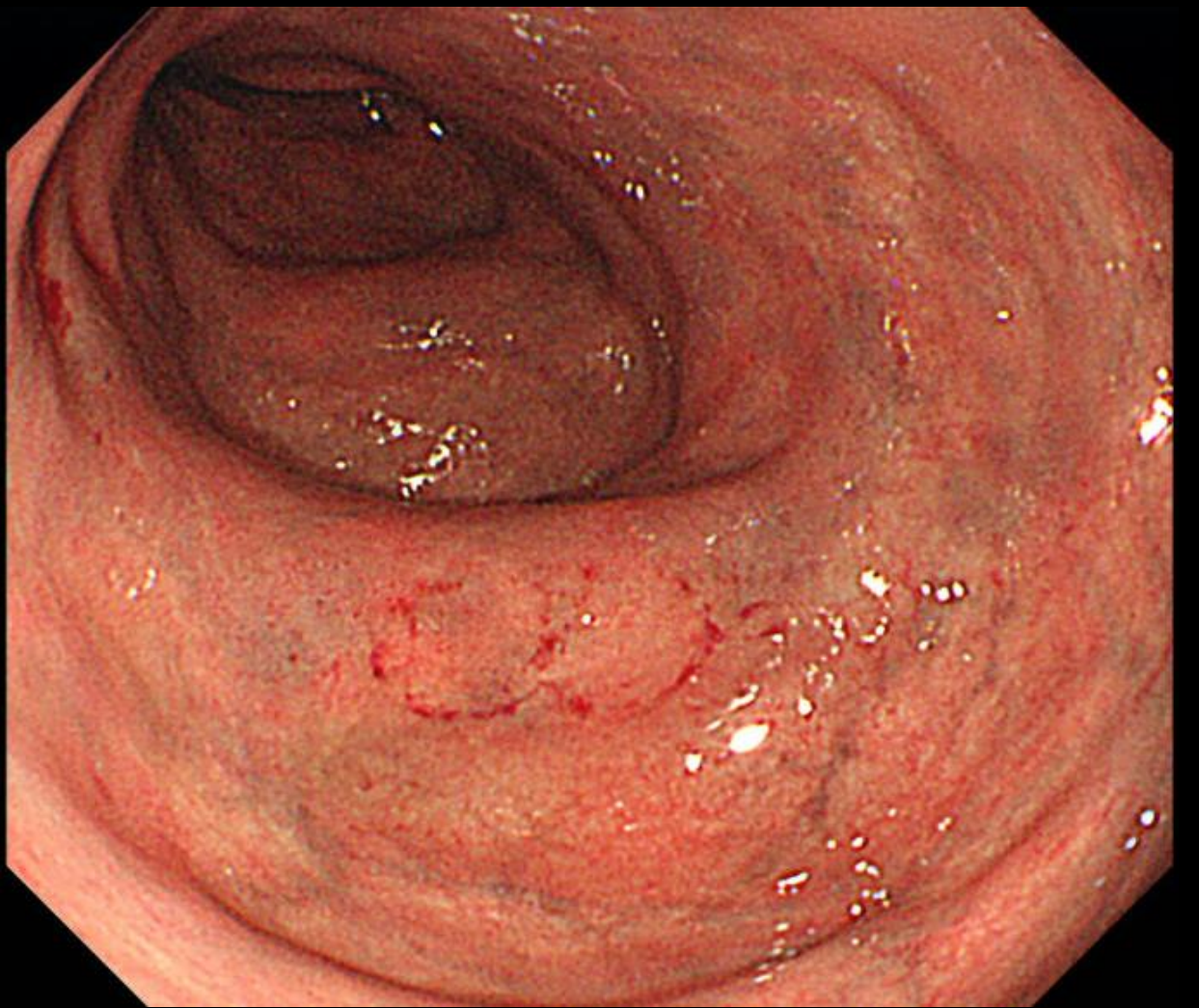
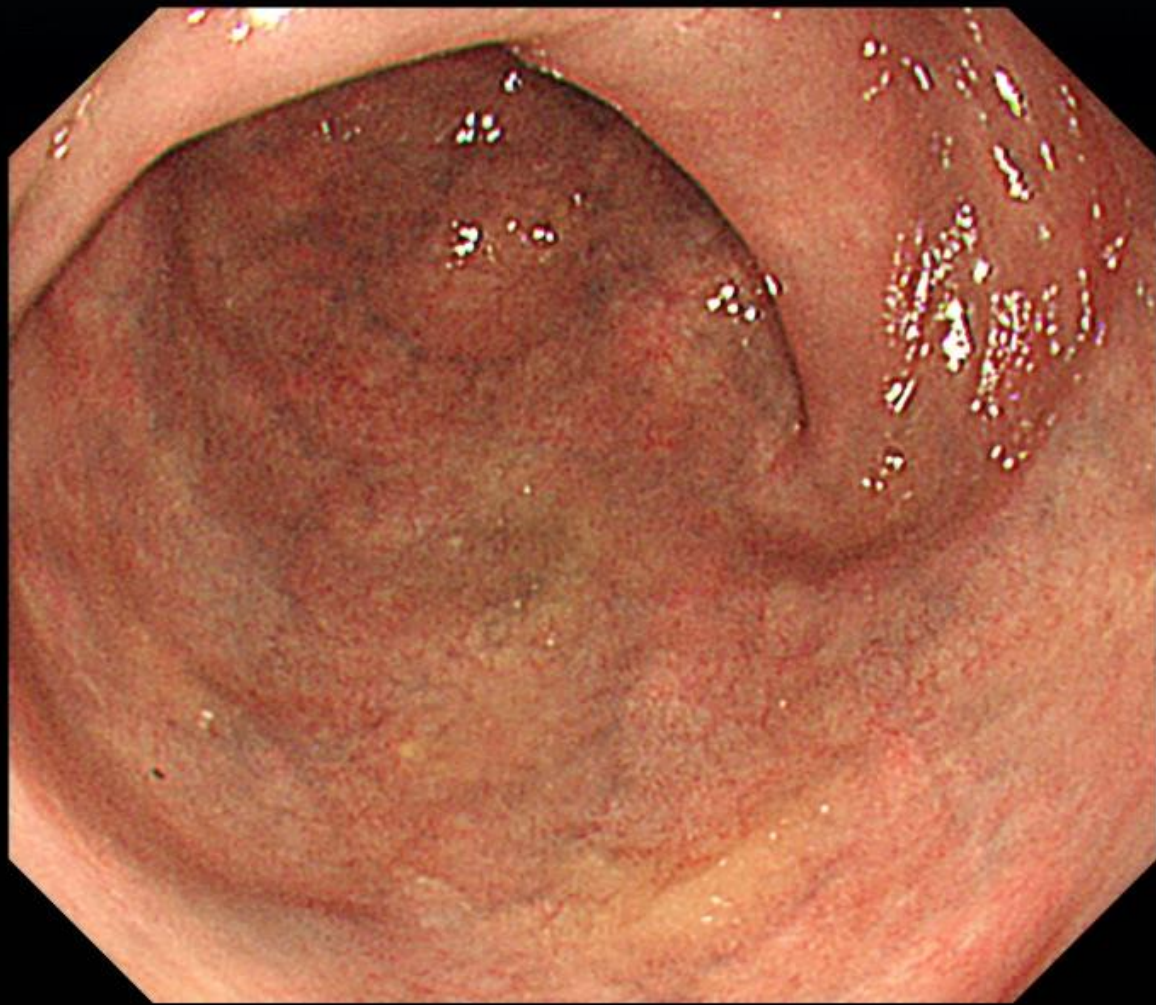
70歳代女性

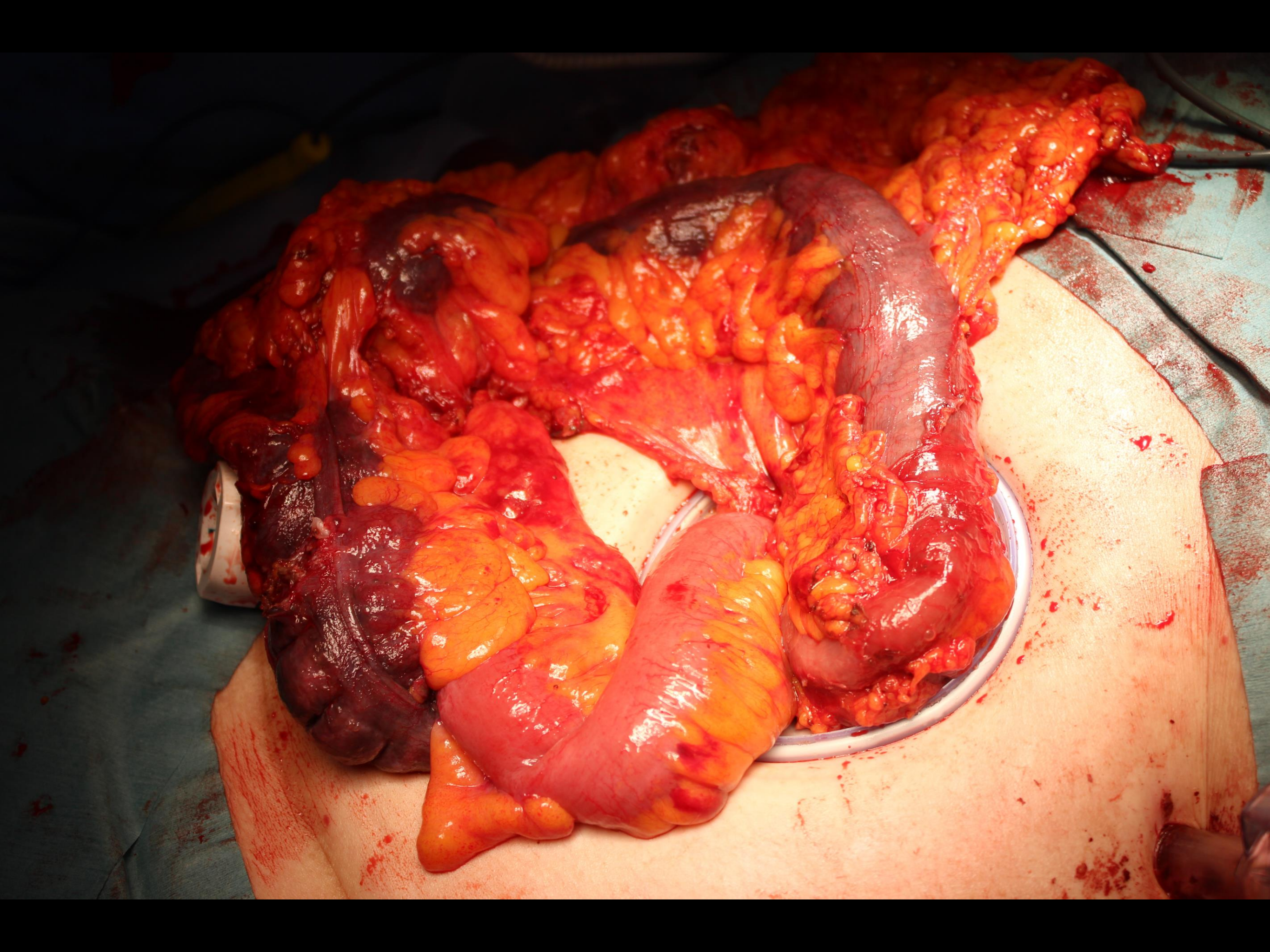
2ヶ月前に近医での内痔核切除術を施行する際に行われた大腸内視鏡検査で、右側結腸粘膜の色調不良・浮腫、小びらんが認められた。退院の1ヶ月後に亜イレウス状態となり、同院に再度入院し2週間の保存的治療により軽快した。

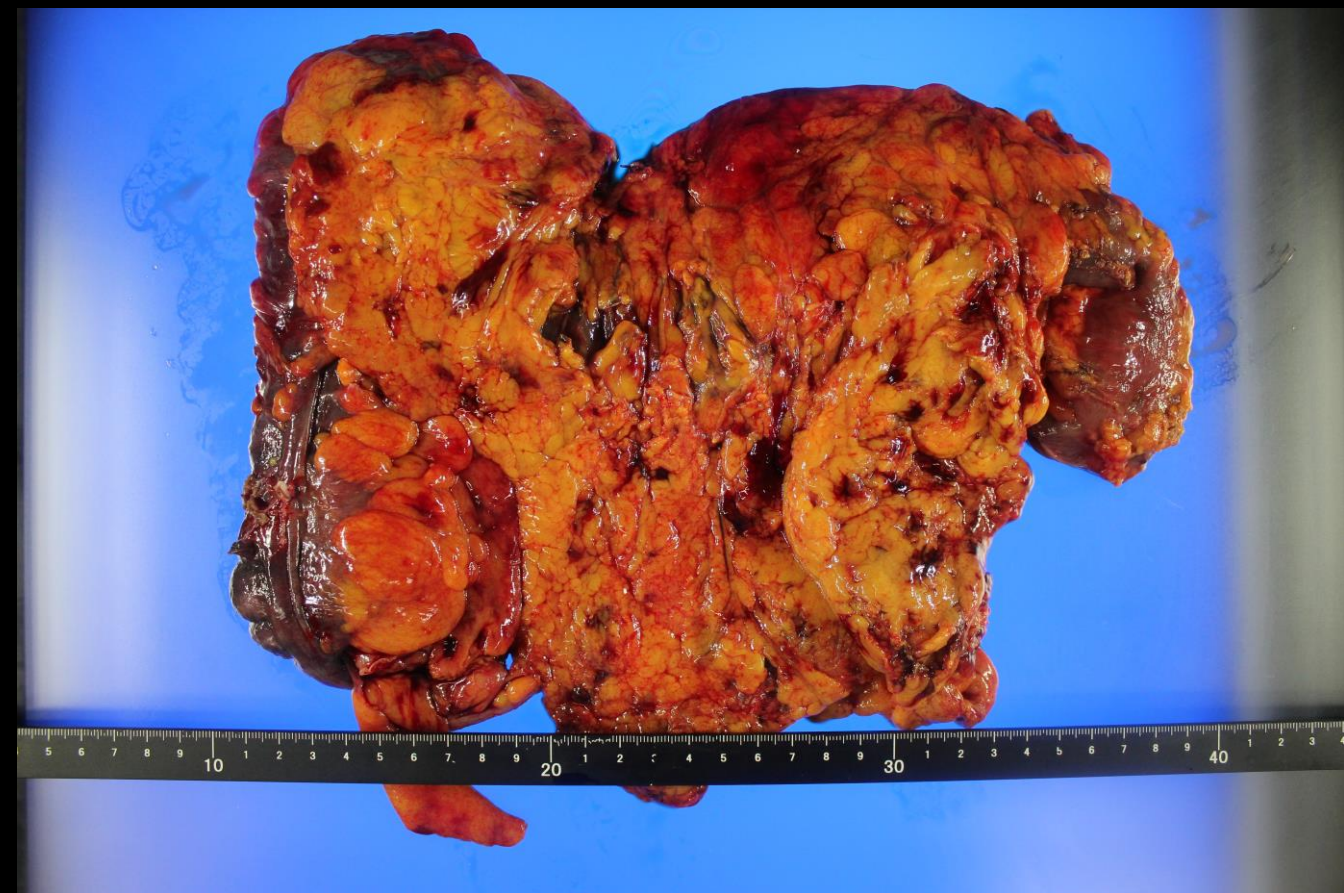
さらに今回入院の2日前に腹部膨満・便秘となり、経口摂取ができなくなった。翌日水様の嘔吐・腹痛増強がみられたため近医を受診した。同院での腹部CTで上行～横行結腸を主とした腸管拡張が認められ、根治的治療目的で当院救急科/外科へ紹介された。イレウス管の挿入により症状の軽減を図ったのちに結腸切除を行った。









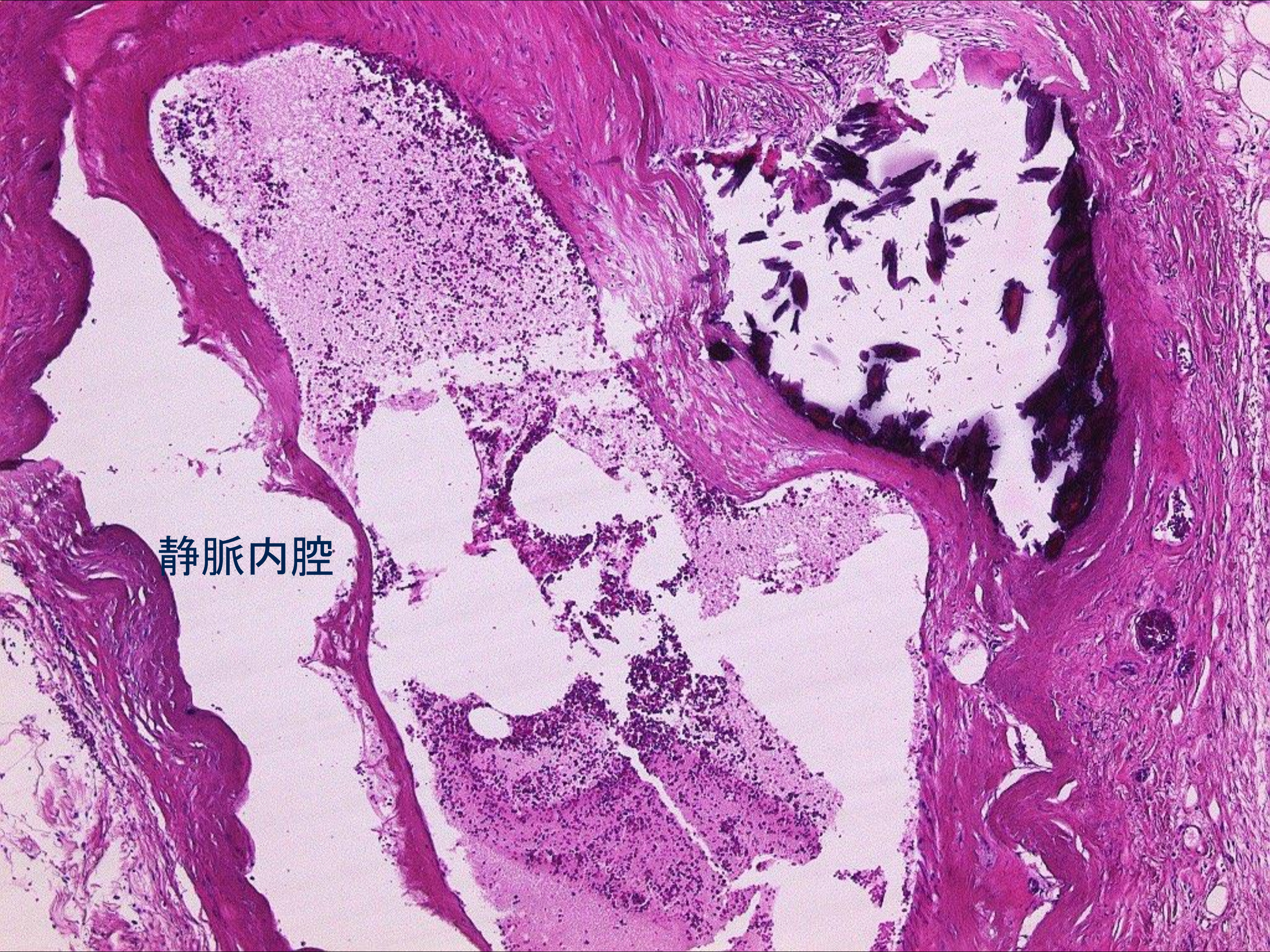




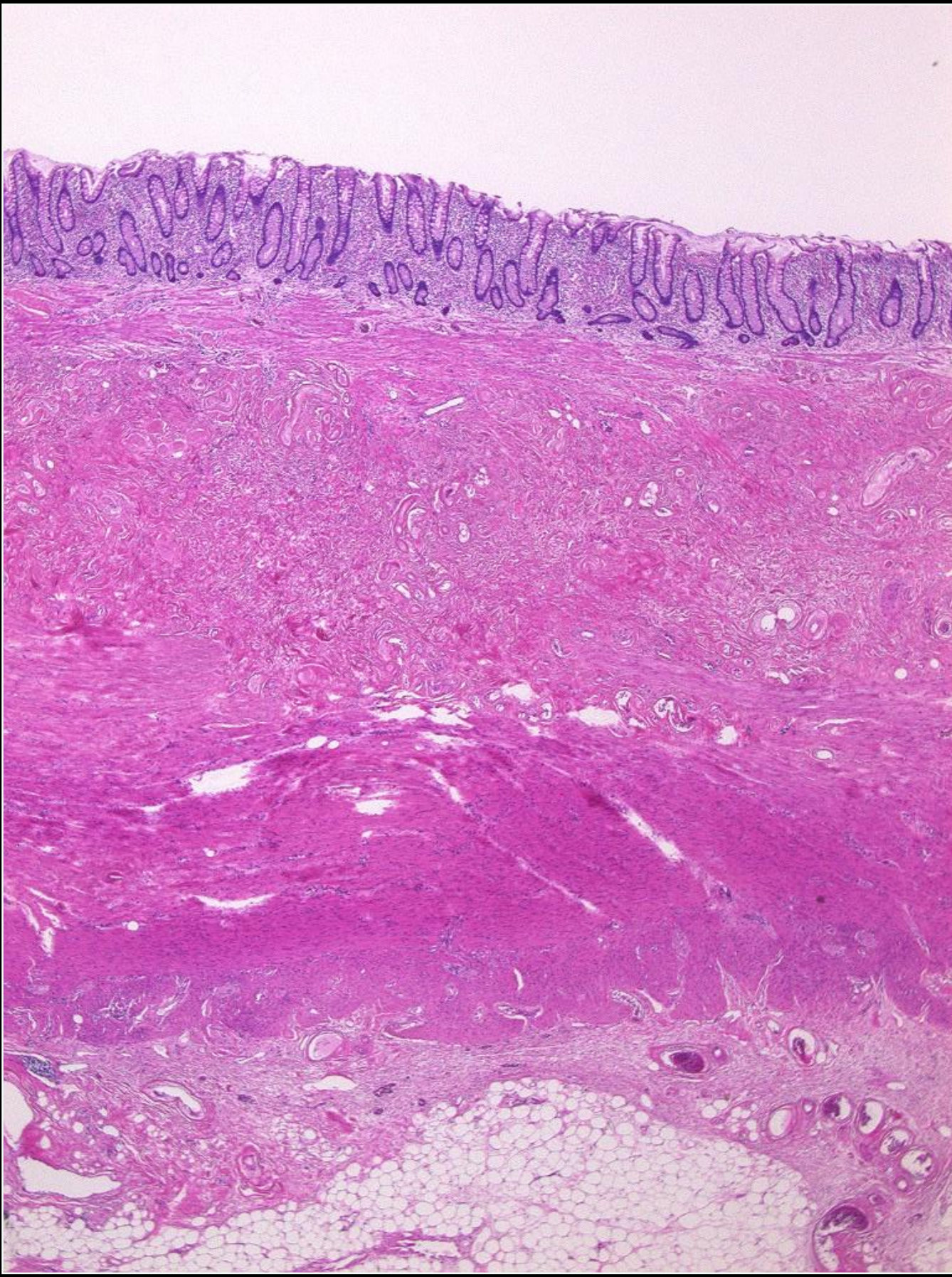
配布標本

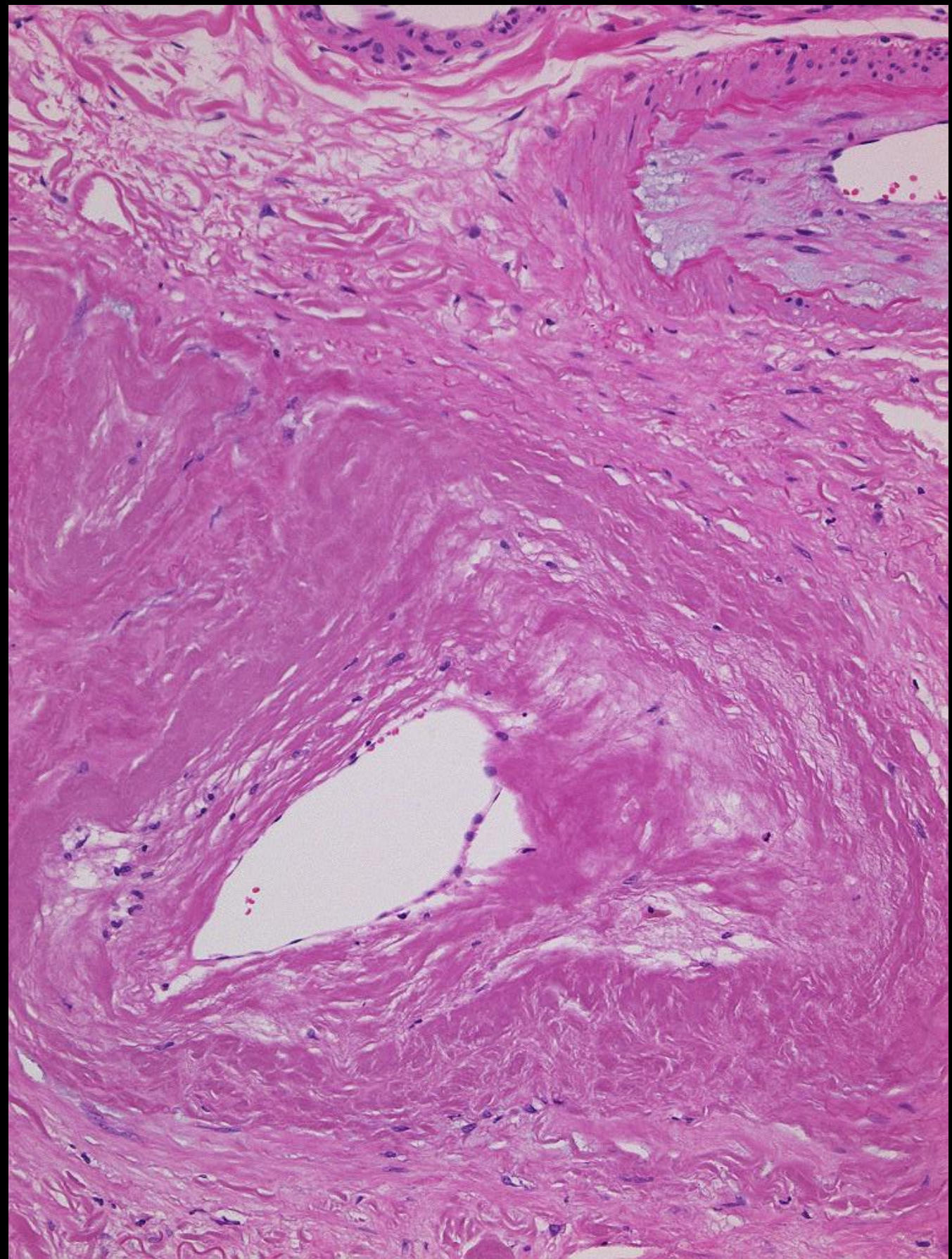
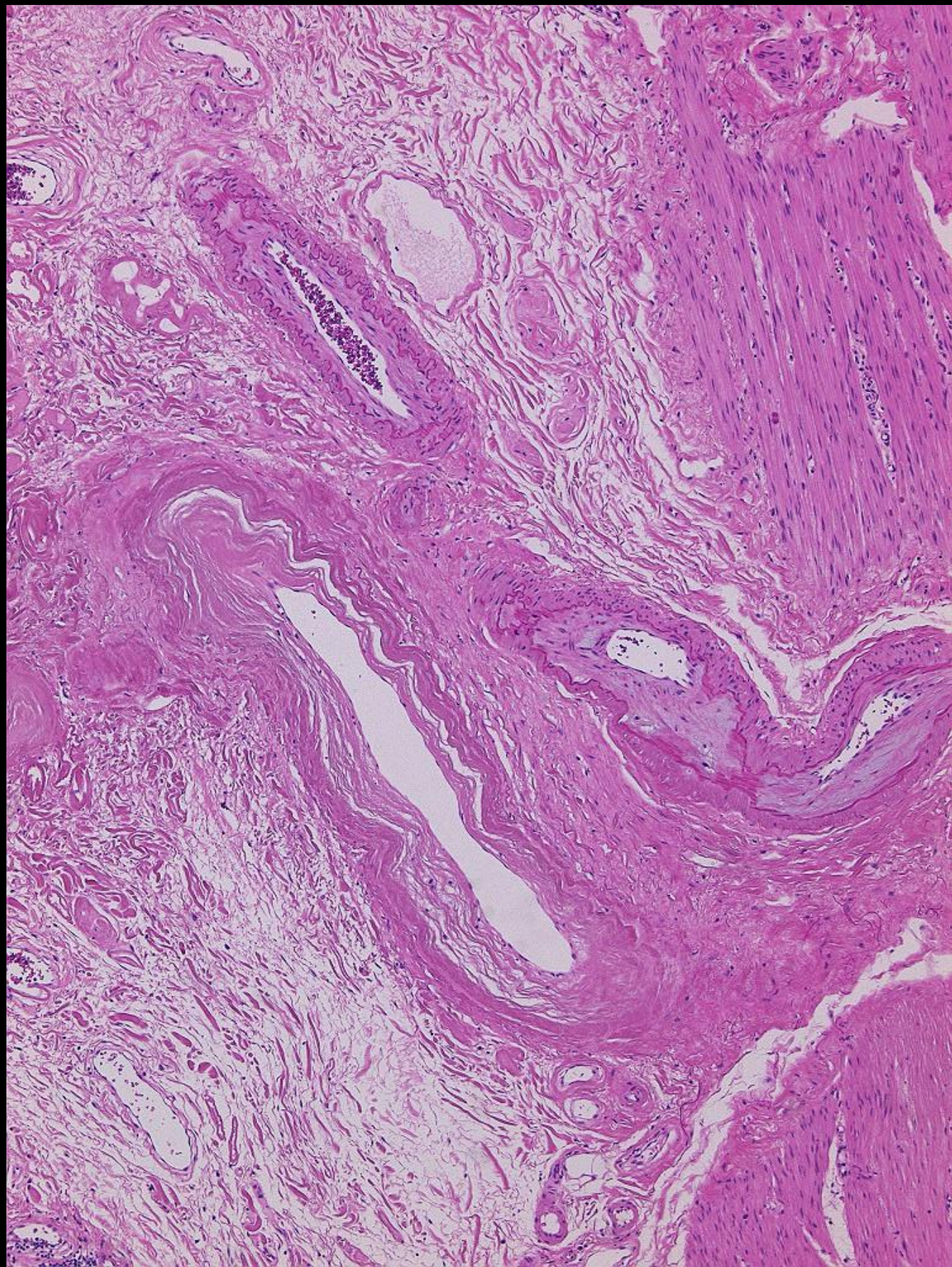


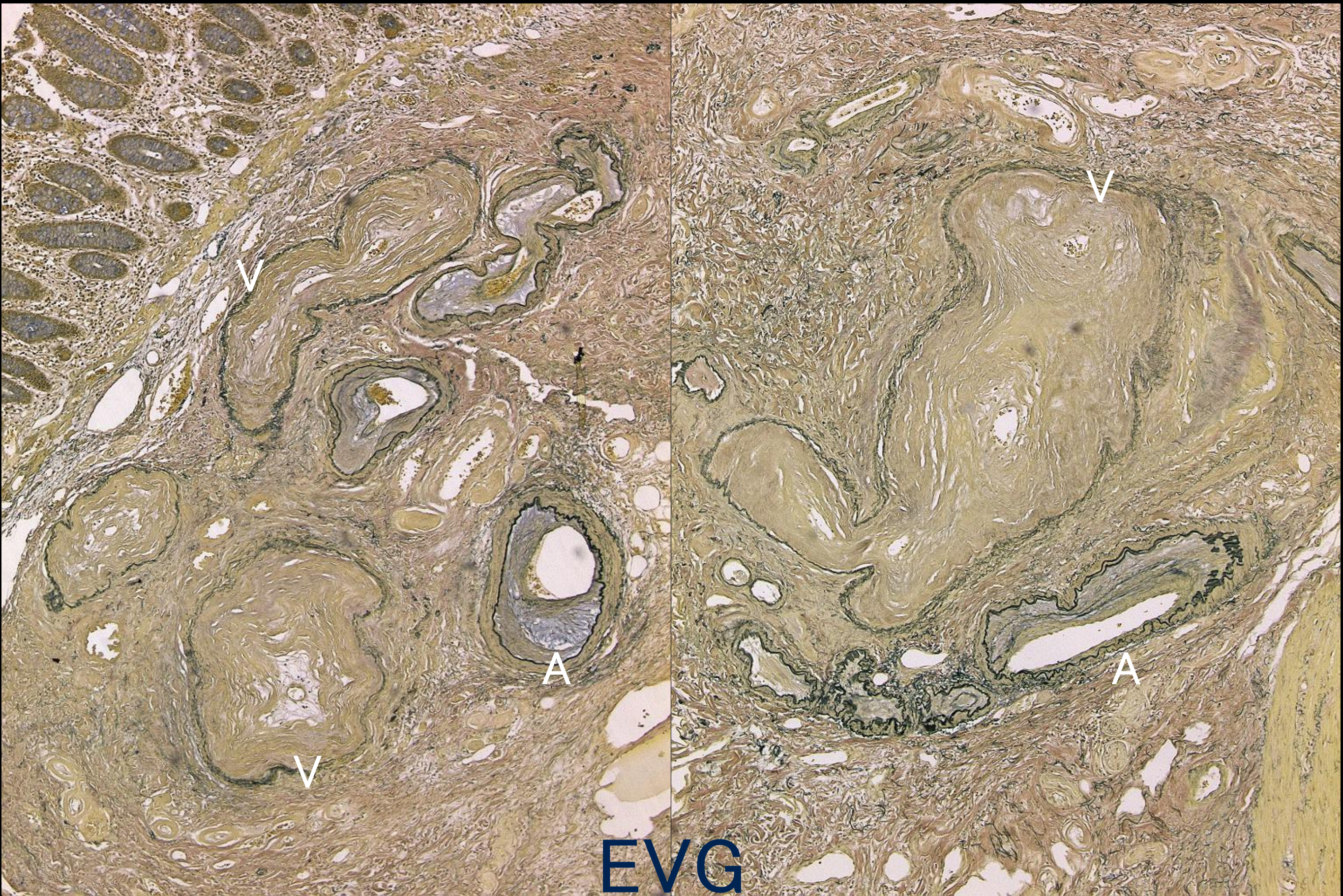
石灰化のある典型像
(別部位の標本)

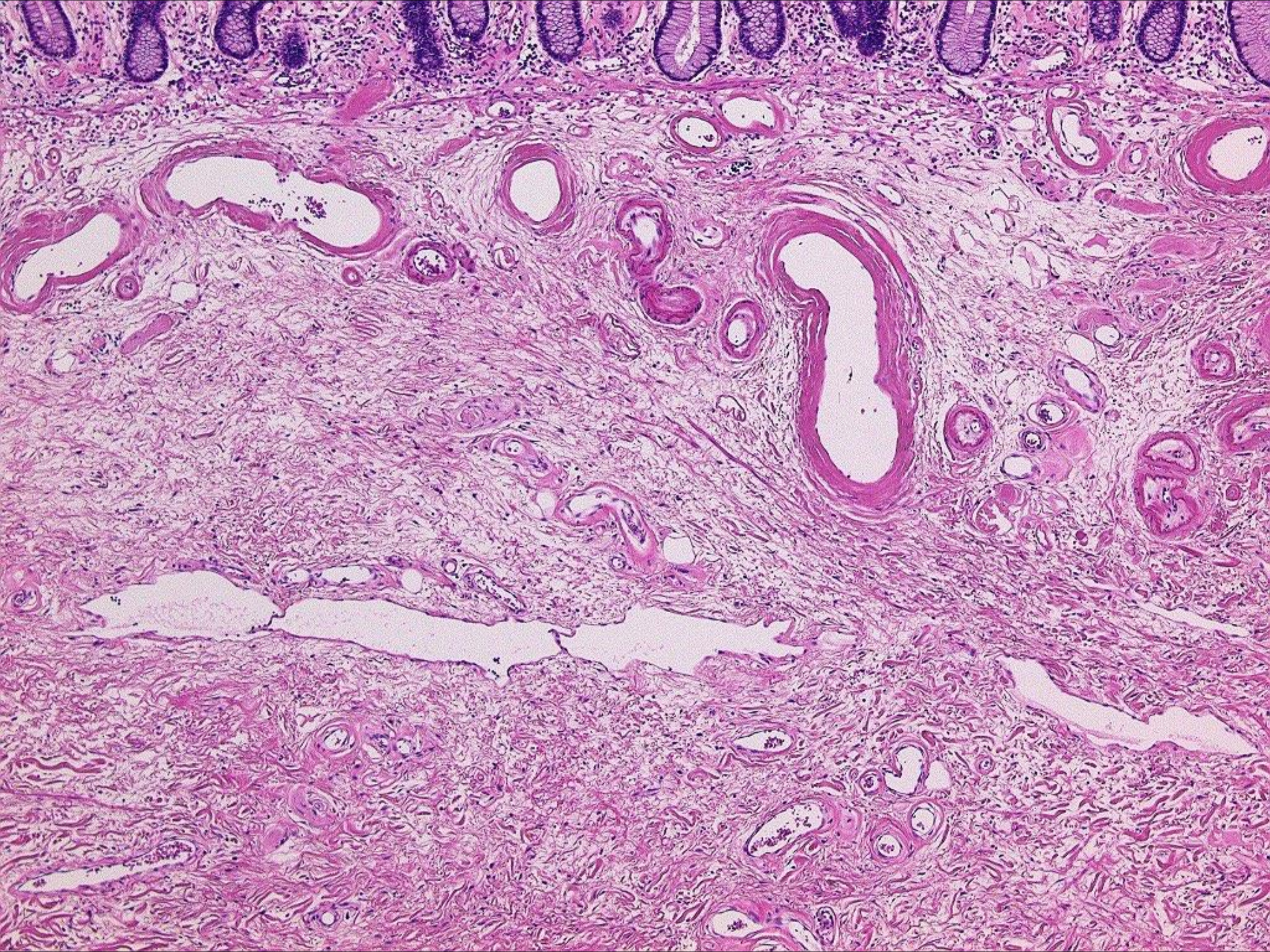


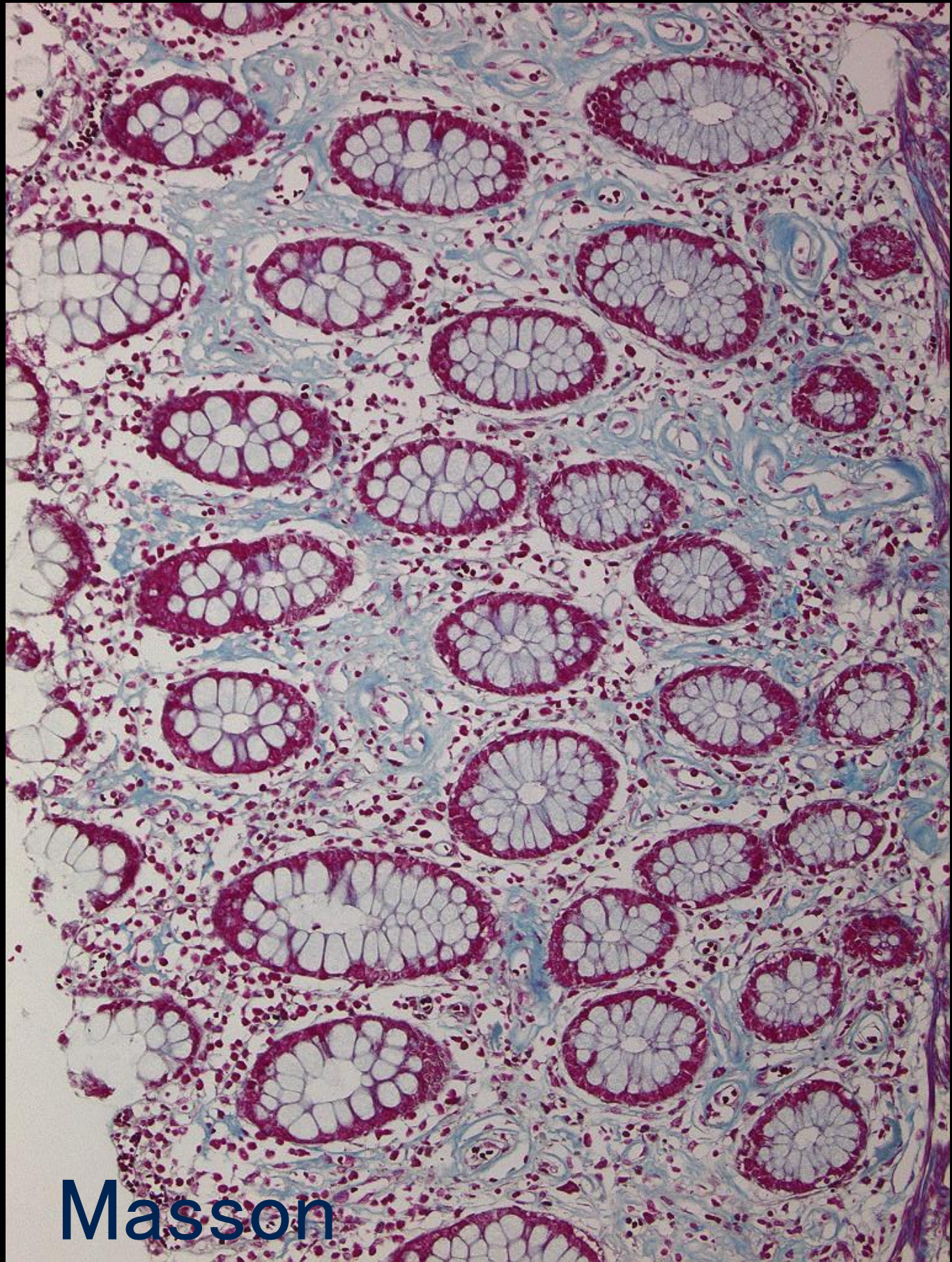
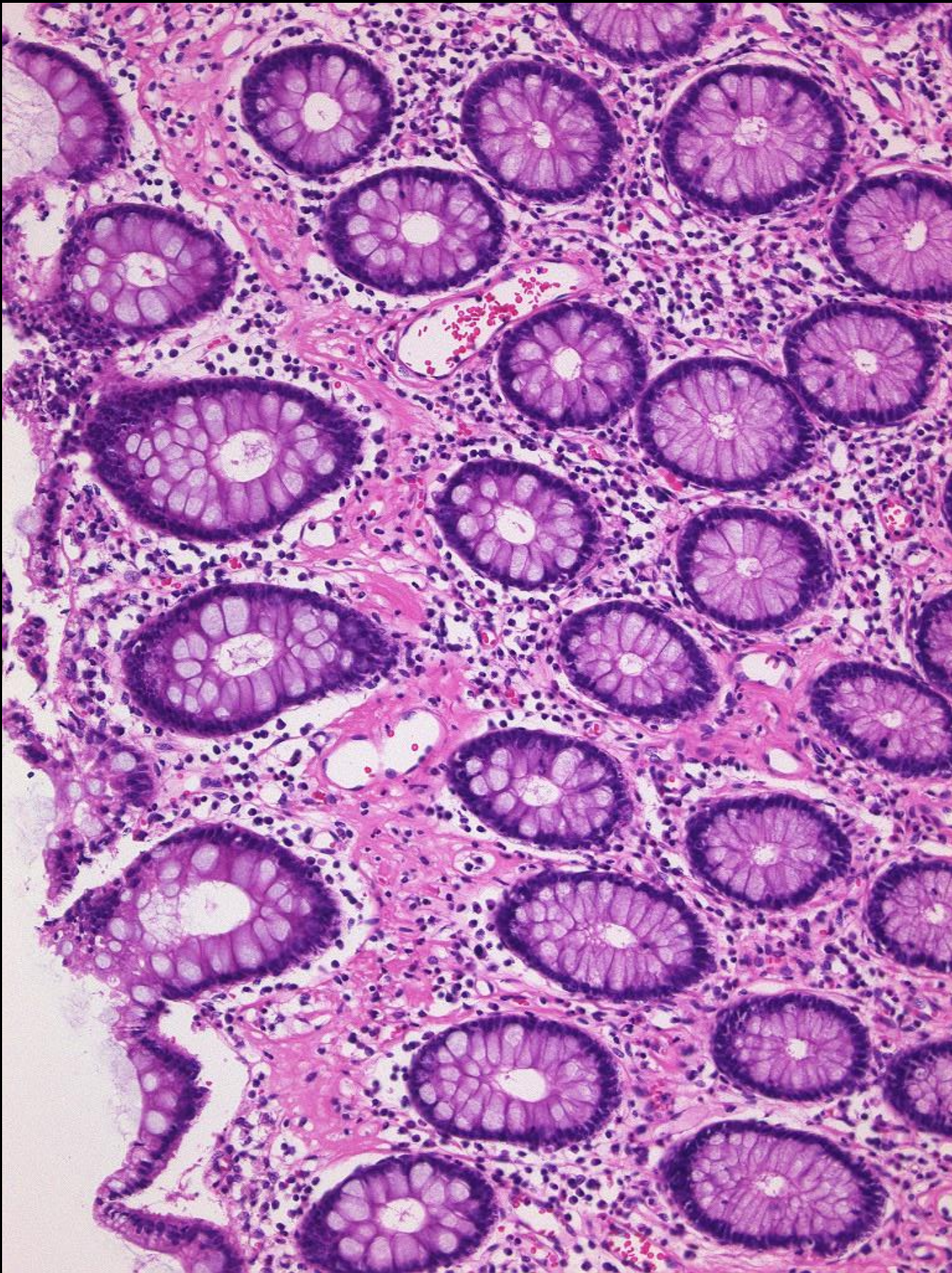
静脈内腔











Masson

腸間膜静脈硬化症
(mesenteric phleboscrosis)

[静脈硬化性大腸炎]
(phlebosclerotic colitis)

mesenteric phleboscclerosis

- ・ 大腸壁～腸間膜の静脈壁の線維性肥厚（＋石灰化）
 - 静脈環流障害
 - 慢性循環障害性変化
- ・ 粘膜下層の高度な線維化と粘膜固有層の著明な膠原繊維沈着
- ・ 粘膜下層の小血管壁への泡沫細胞の出現
- ・ 随伴動脈壁の肥厚と石灰化
- ・ 血栓形成はない

mesenteric phleboscclerosis

【疾患の実態】全国実態調査結果（調査事例222例）

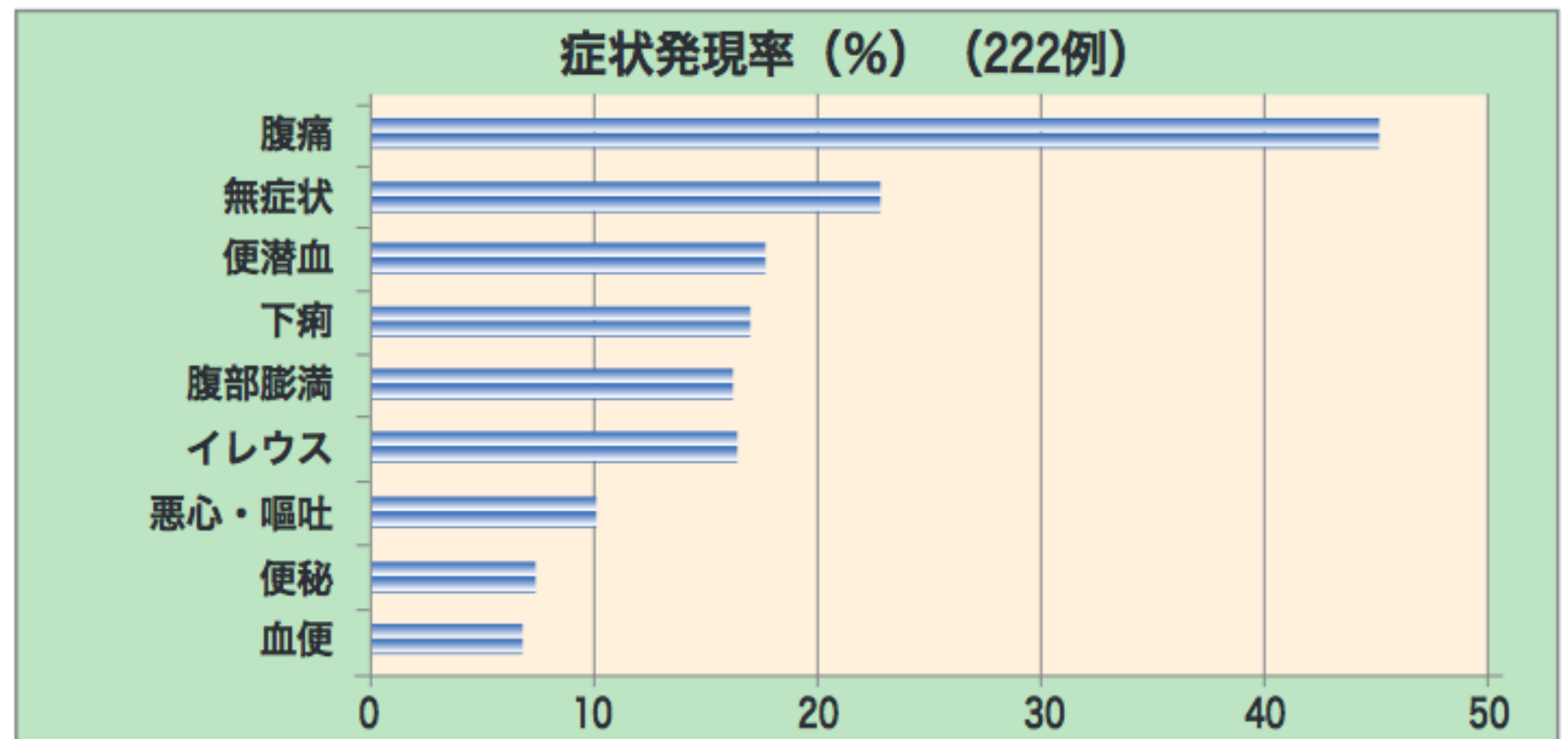
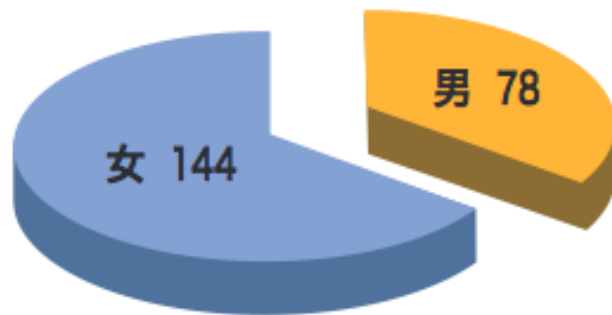
＜患者年齢・性別＞

26～89歳（平均63.8歳）

男性78例、女性144例（1：1.8）

＜症状＞

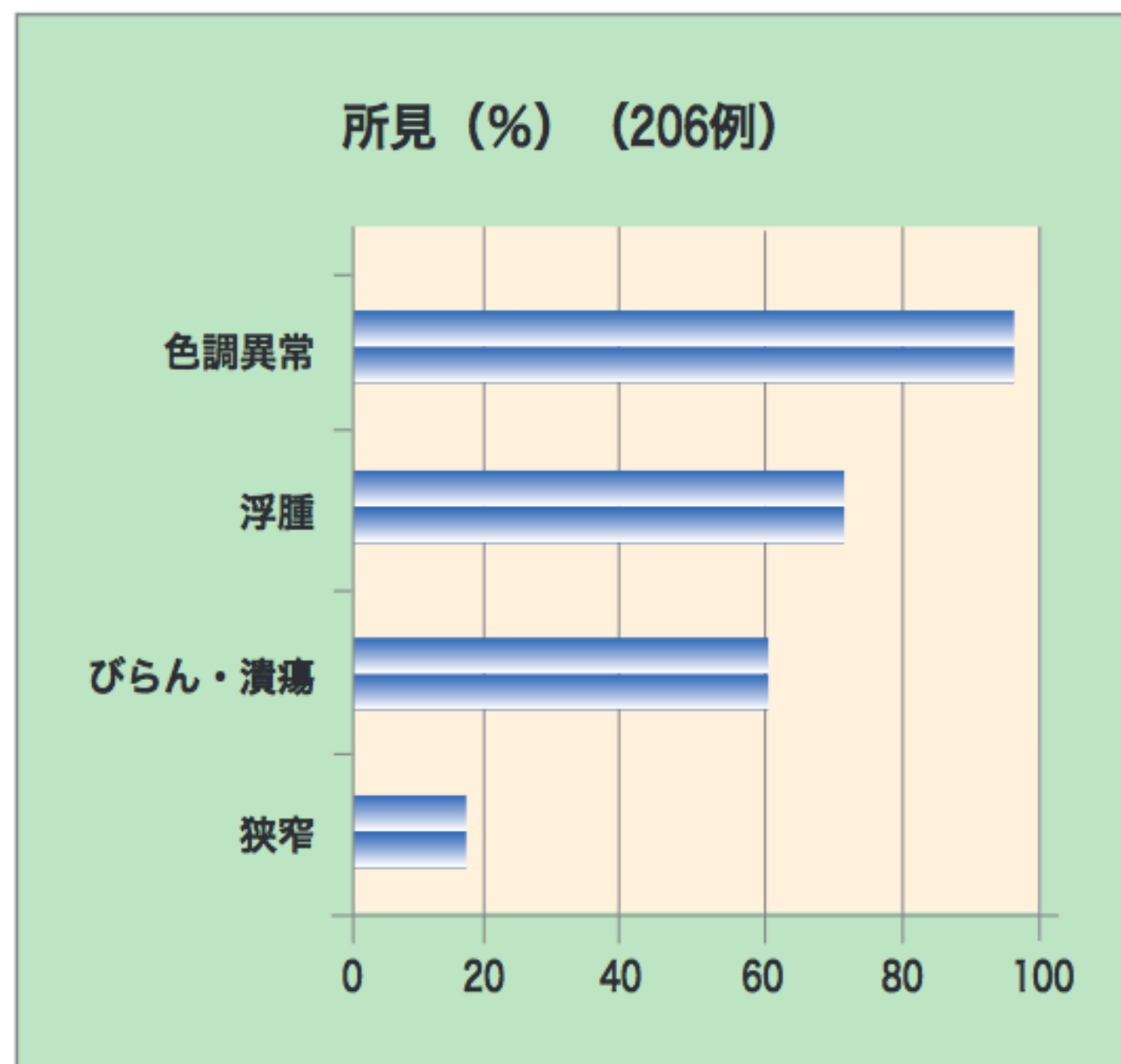
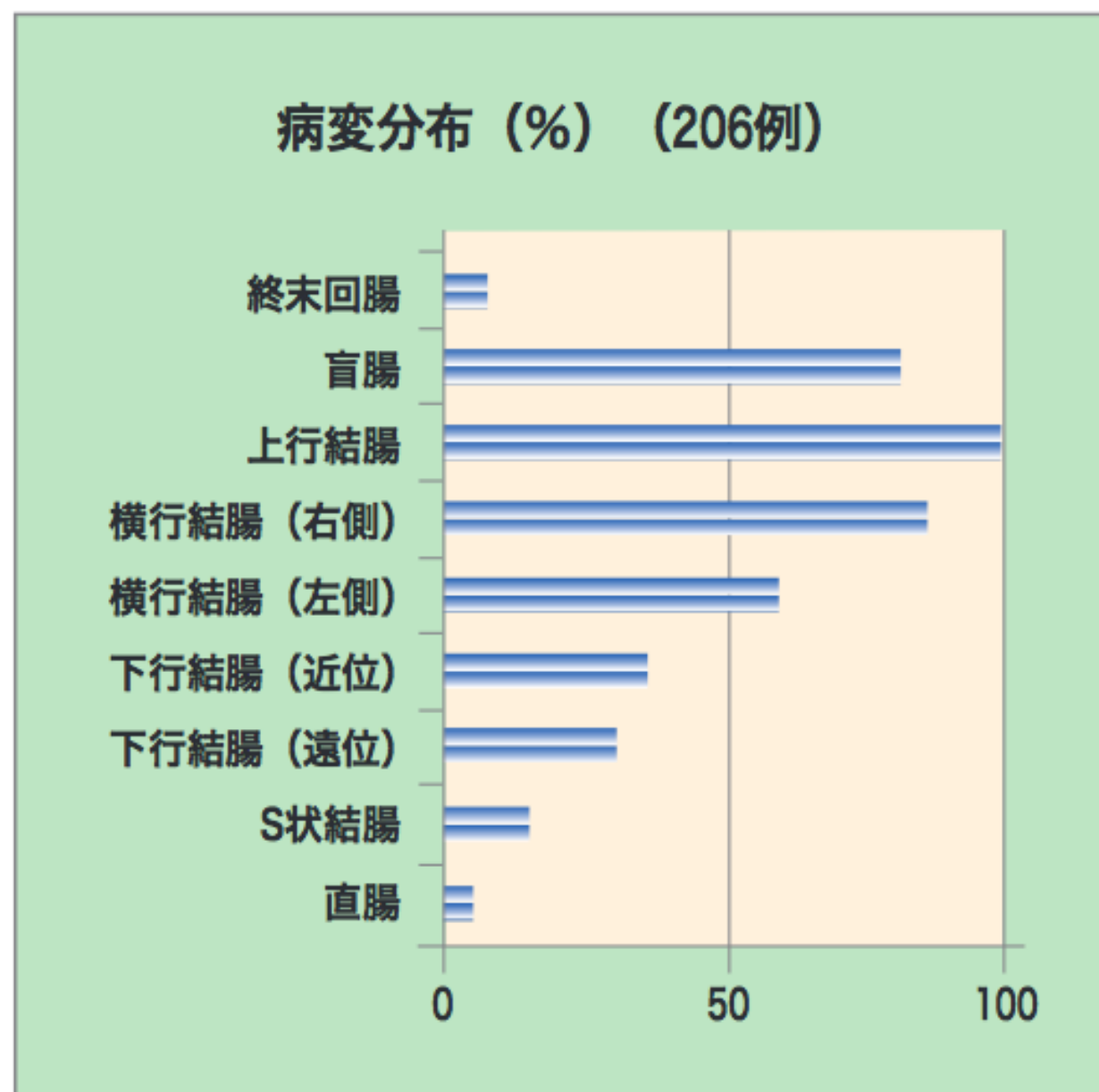
主な症状は、腹痛、下痢、腹部膨満、イレウスであるが、無症状（便潜血陽性を含む）症例も2割程度



<内視鏡所見>

病変分布：終末回腸から直腸に及ぶが、中心は右側結腸で上行結腸（100%）から直腸にかけて頻度は減少

所見：色調異常（98.5%）、浮腫（71.4%）、びらん・潰瘍（60.2%）、狭窄（17.9%）



<CT所見> 大腸壁あるいは腸間膜静脈に沿った線状、点状の石灰化 (91.2%)

mesenteric phleboscclerosis (画像)

腹部単純X線

右側大腸に沿って並ぶ線状・点状石灰化像

注腸X線

右半結腸の狭小化，伸展不良，拇指圧痕像

腹部CT

結腸壁の肥厚，周囲の血管壁石灰化

内視鏡検査

粘膜は暗青色～暗黒色（青銅色）で浮腫状 小潰瘍／びらん

mesenteric phleboscclerosis (原因)

- ・ 漢方薬

山梔子: 成分のゲニポシドが腸内細菌によって加水分解され、生成されたゲニピンが大腸から吸収されて腸間膜静脈を通過して肝臓に到達する間に、アミノ酸やたんぱく質と反応し、青色色素を形成するとともに、腸間膜静脈壁の線維性肥厚・石灰化を引き起こし、血流を鬱滞させ、腸管壁の浮腫、線維化、石灰化、腸管狭窄を起こす。

- ・ 環境要因

- ・ 遺伝的要因

- ・ 免疫異常

さんしし

サンシシ（山梔子）は、アカネ科のクチナシの果実を乾燥したものです。

漢方的には、清熱、除煩、消炎などの効能があり、熱症状、のぼせ、イライラ感、不眠などに用いられます。

また、クチナシは古くから黄色染料として用いられ、現在も、きんとんやタクアンなどの食品の着色料としても用いられています。

1



サンシシの原形生薬

2



サンシシの原形生薬

3



サンシシの刻み生薬

4



サンシシの刻み生薬

5



クチナシの花

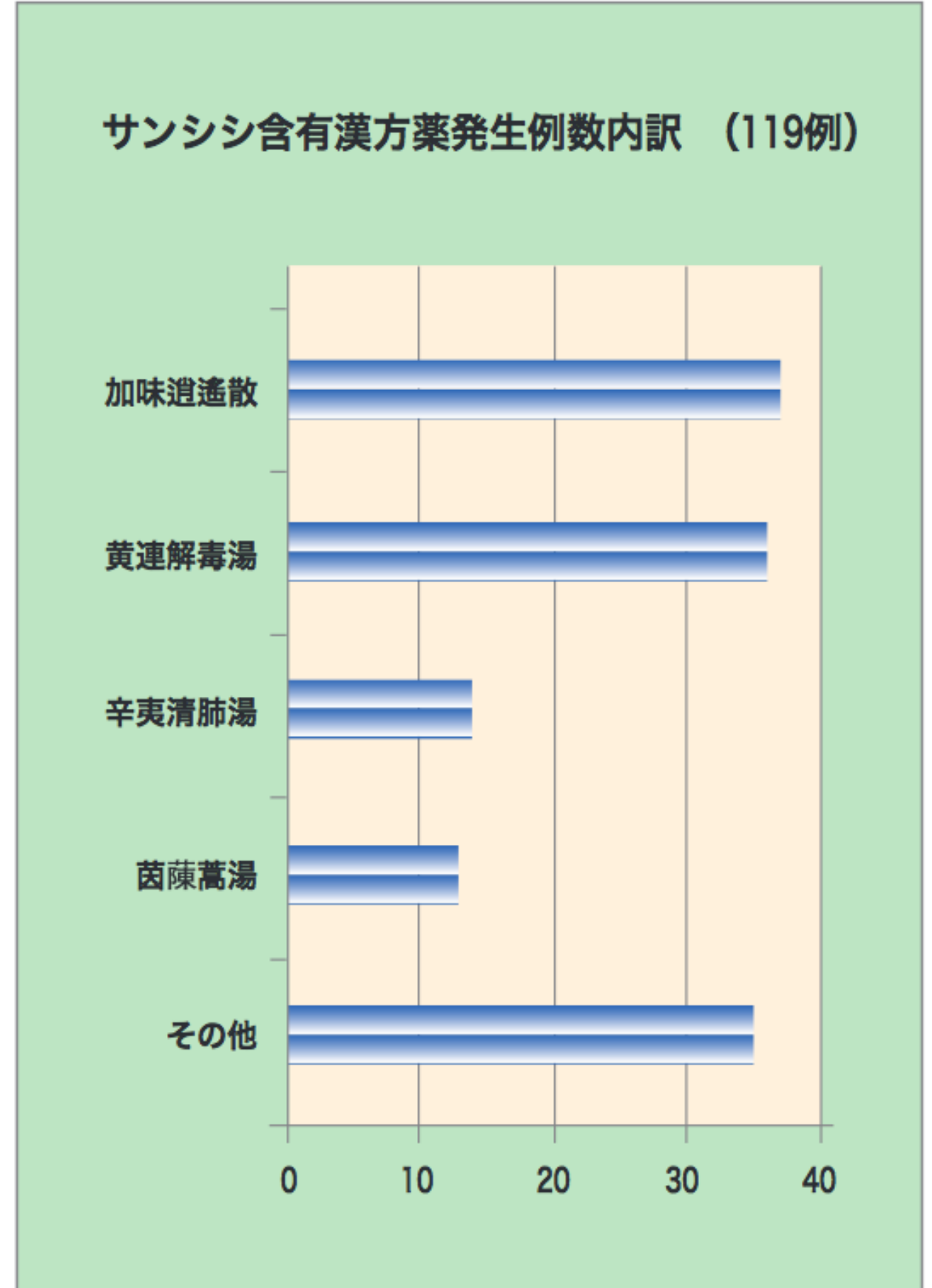
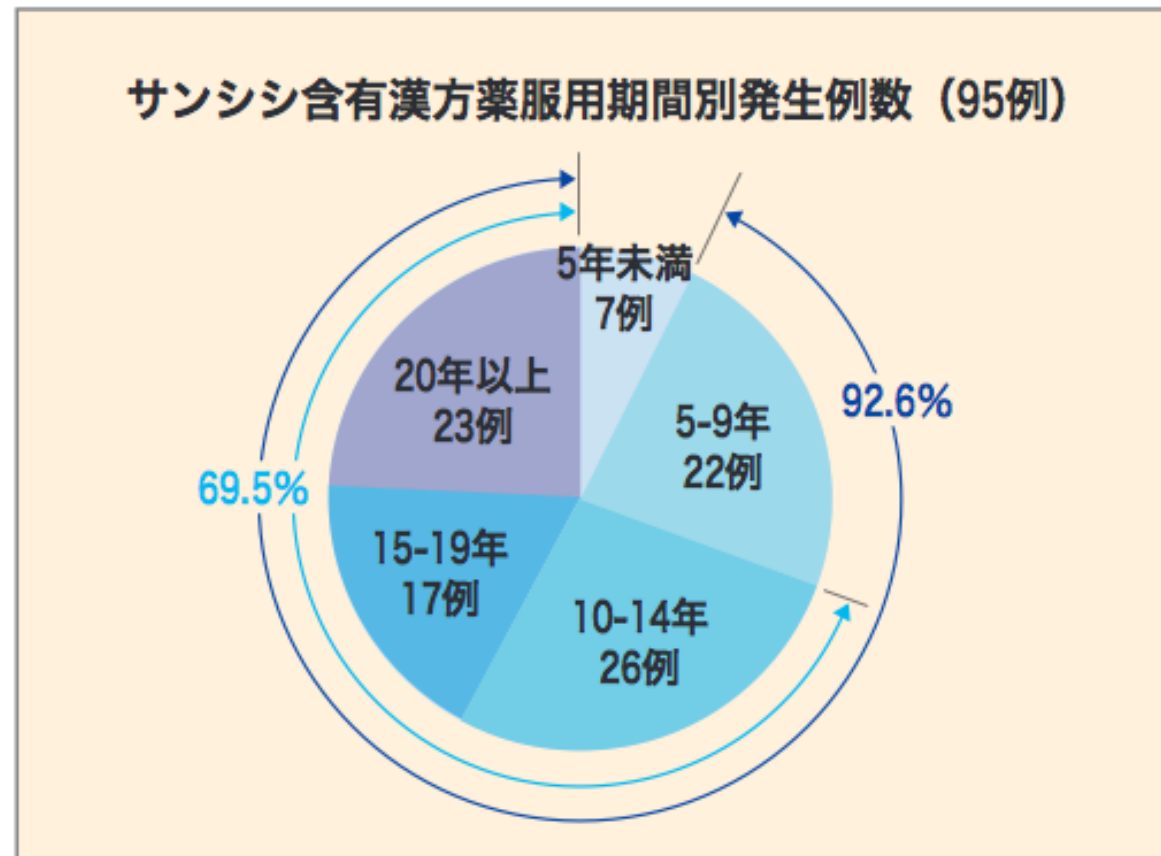
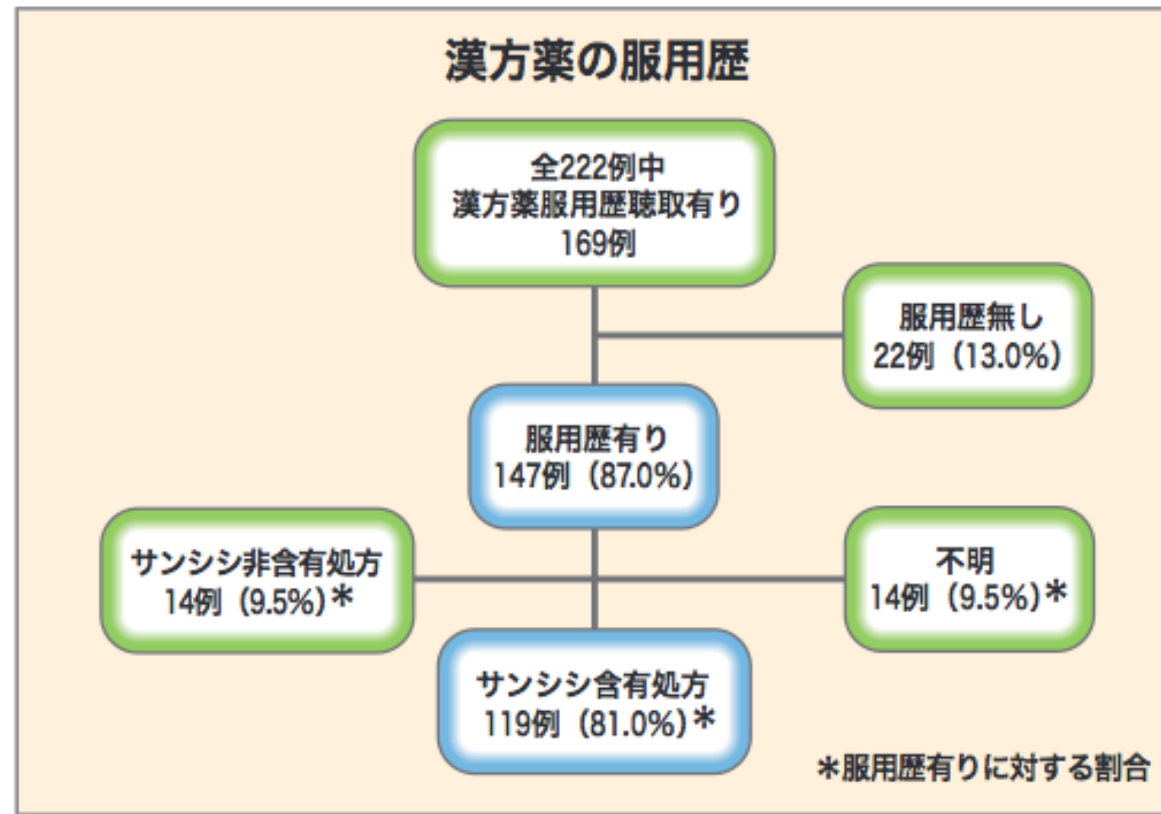
6



クチナシの果実

<漢方薬の服用歴> 漢方薬服用歴の有る患者は147例 (87.0%)、そのうちサンシシ含有漢方薬の服用患者は119例 (81.0%)

<サンシシ含有漢方薬の服用期間> 平均13.6年、5年以上92.6%、10年以上69.5%の患者が服用



山梔子含有漢方製剤

- ・ 黄連解毒湯 (No.15)
- ・ 加味逍遥散 (No.24)
- ・ 荊芥連翹湯 (No.50)
- ・ 五淋散 (No.56)
- ・ 温清飲 (No.57)
- ・ 清上防風湯 (No.58)
- ・ 防風通聖散 (No.62)
- ・ 竜胆瀉肝湯 (No.76)
- ・ 柴胡清肝湯 (No.80)
- ・ 清肺湯 (No.90)
- ・ 辛夷清肺湯 (No.104)
- ・ 茵陳蒿湯 (No.135)
- ・ 加味帰脾湯 (No.137)
- ・ 梔子柏皮湯 (No.314)

本患者は20年にわたって#15および#24を服用

mesenteric phlebosclerosis (治療・予後)

漢方薬投与を中止

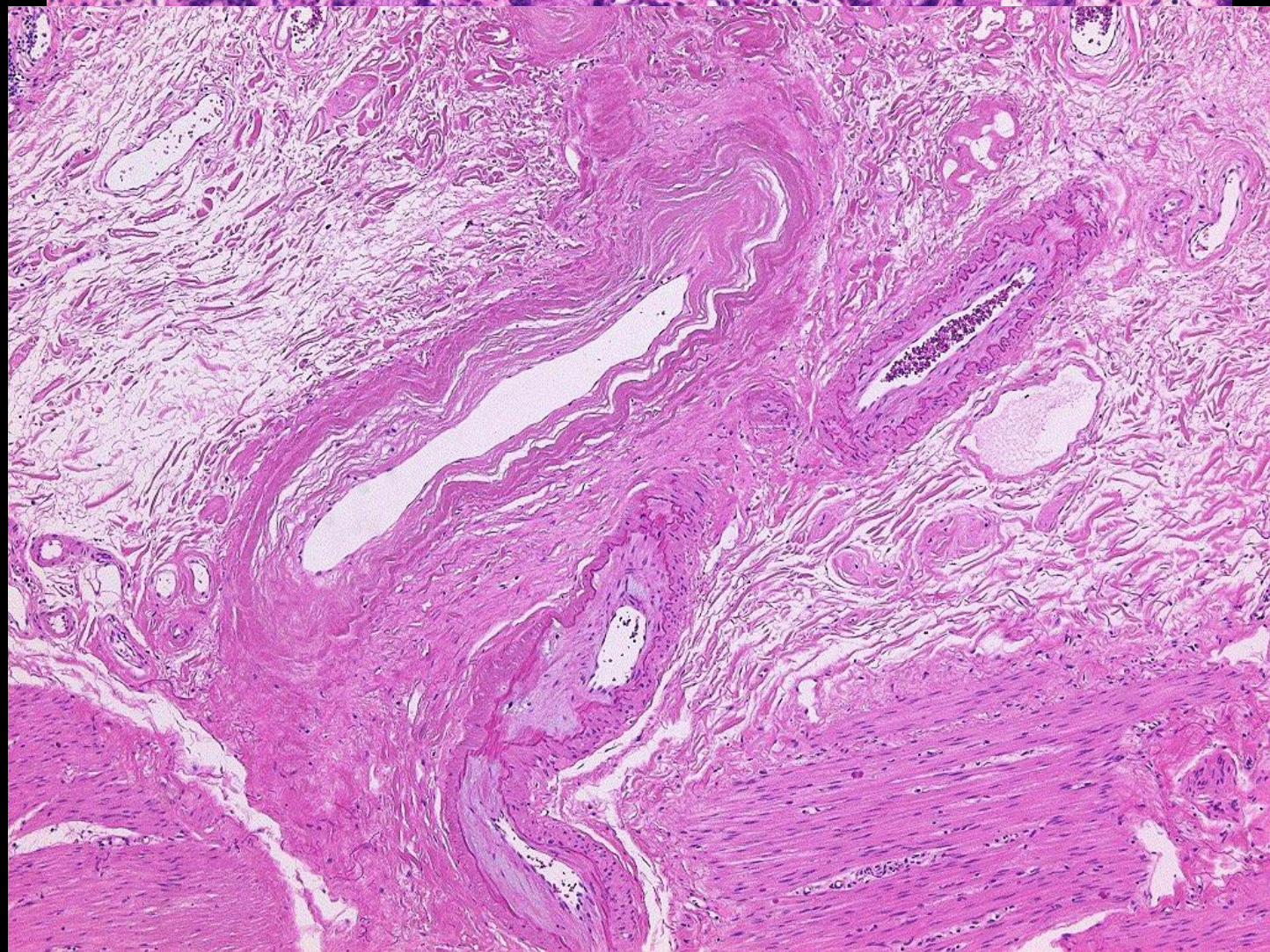
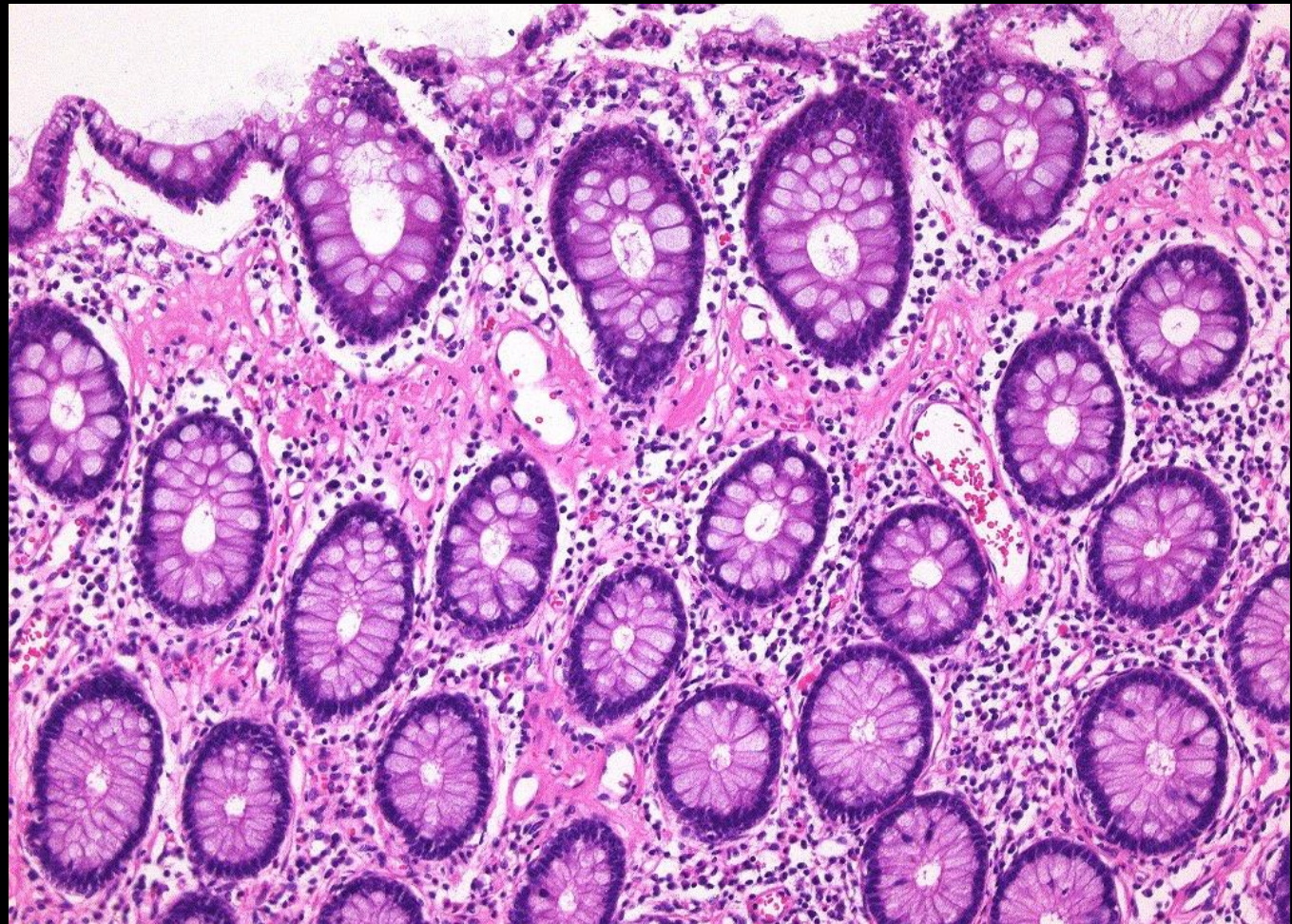
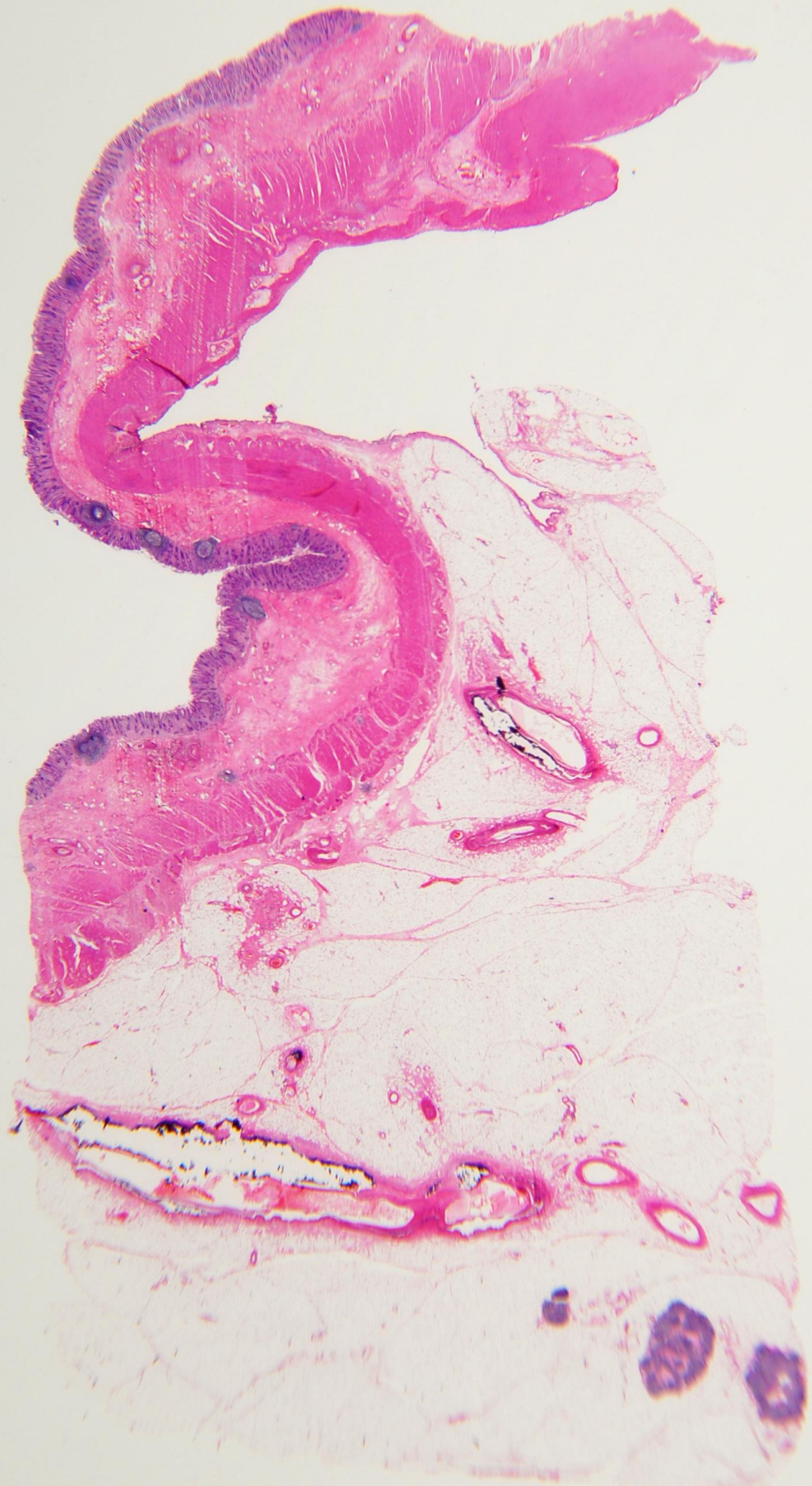
→ 経過観察／薬物治療（抗凝固薬・アミノサ
リチル酸）

イレウス・重度の腹痛を繰り返す場合

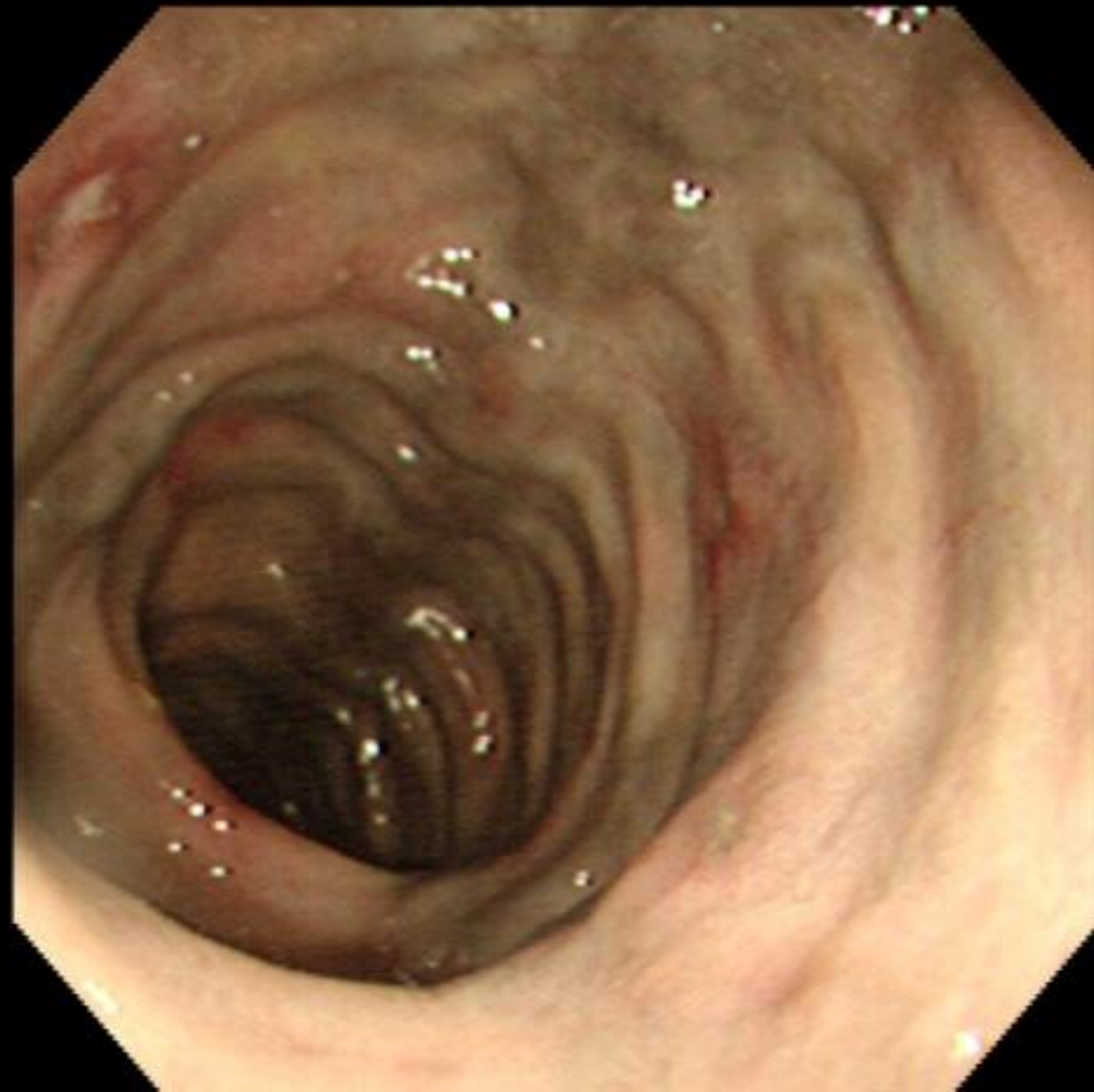
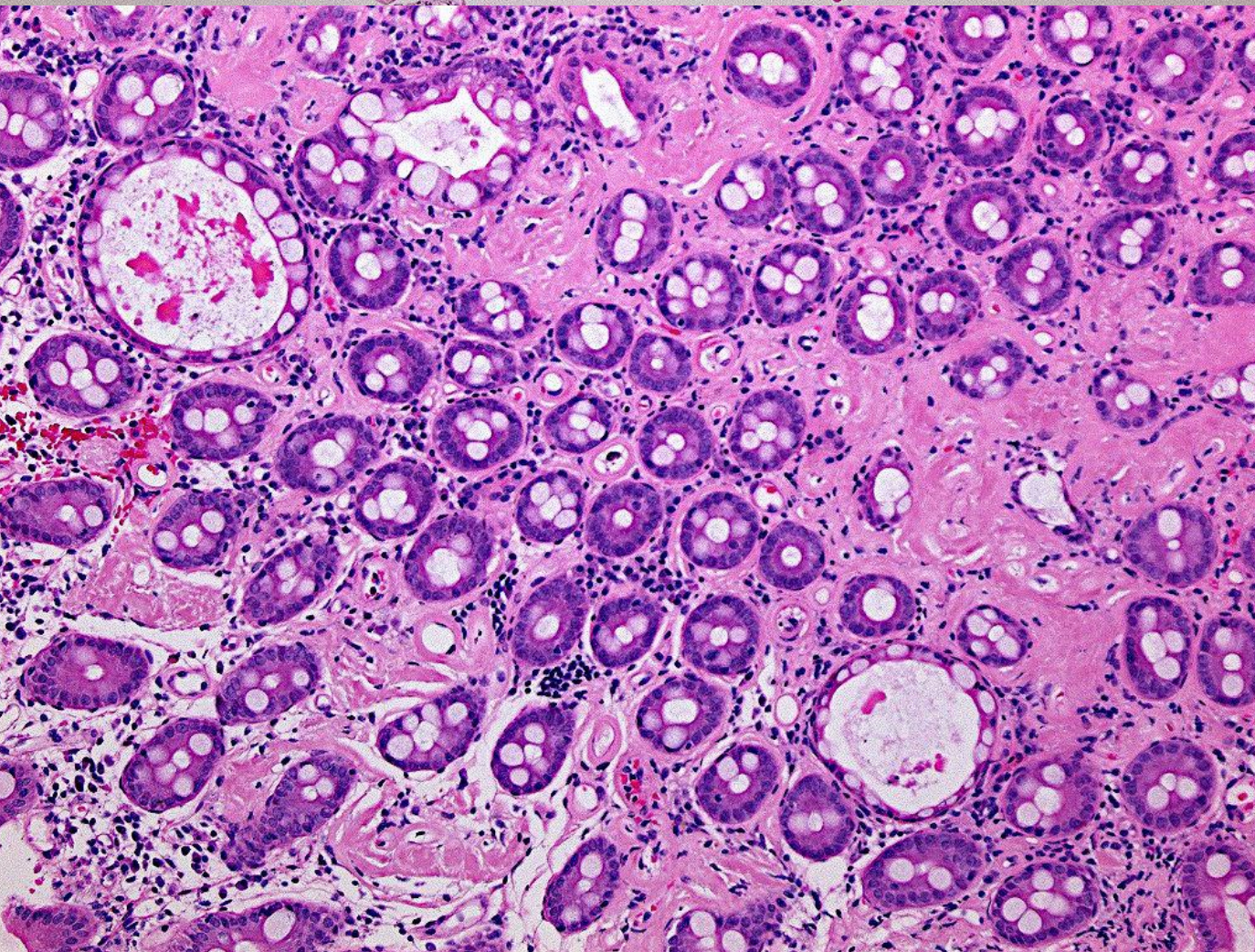
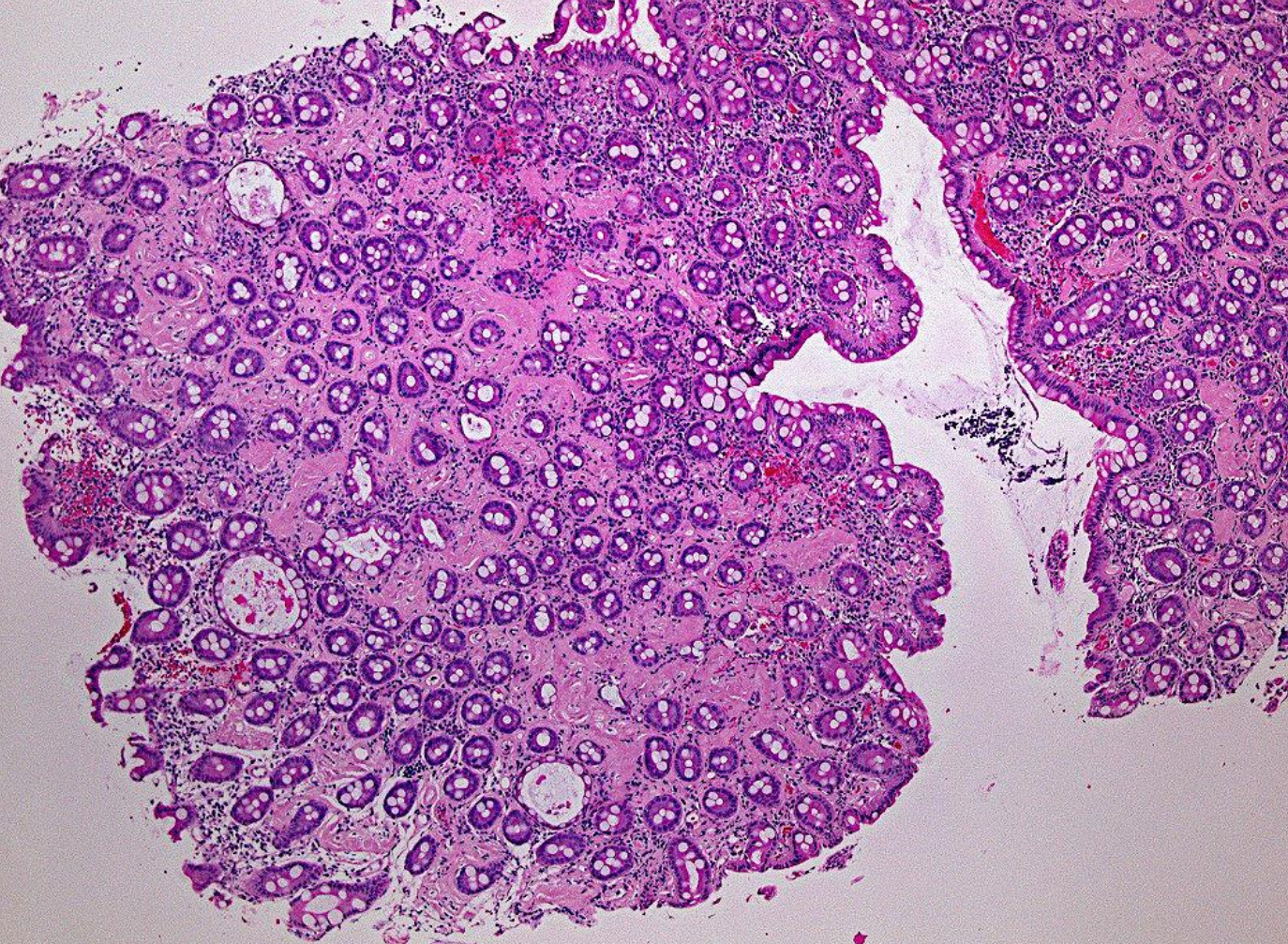
→ 腸管切除も考慮

概して予後良好で、自覚症状は改善

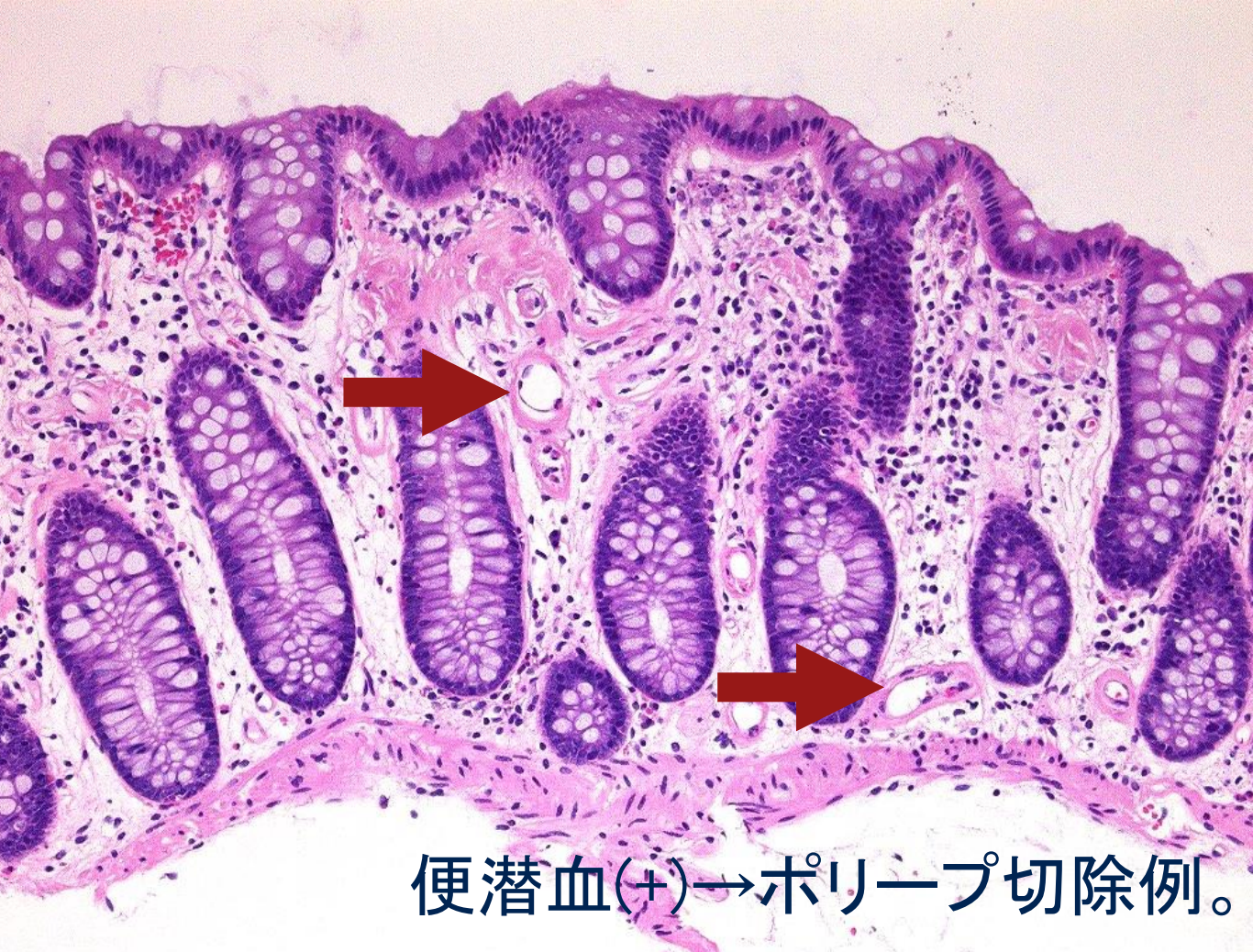
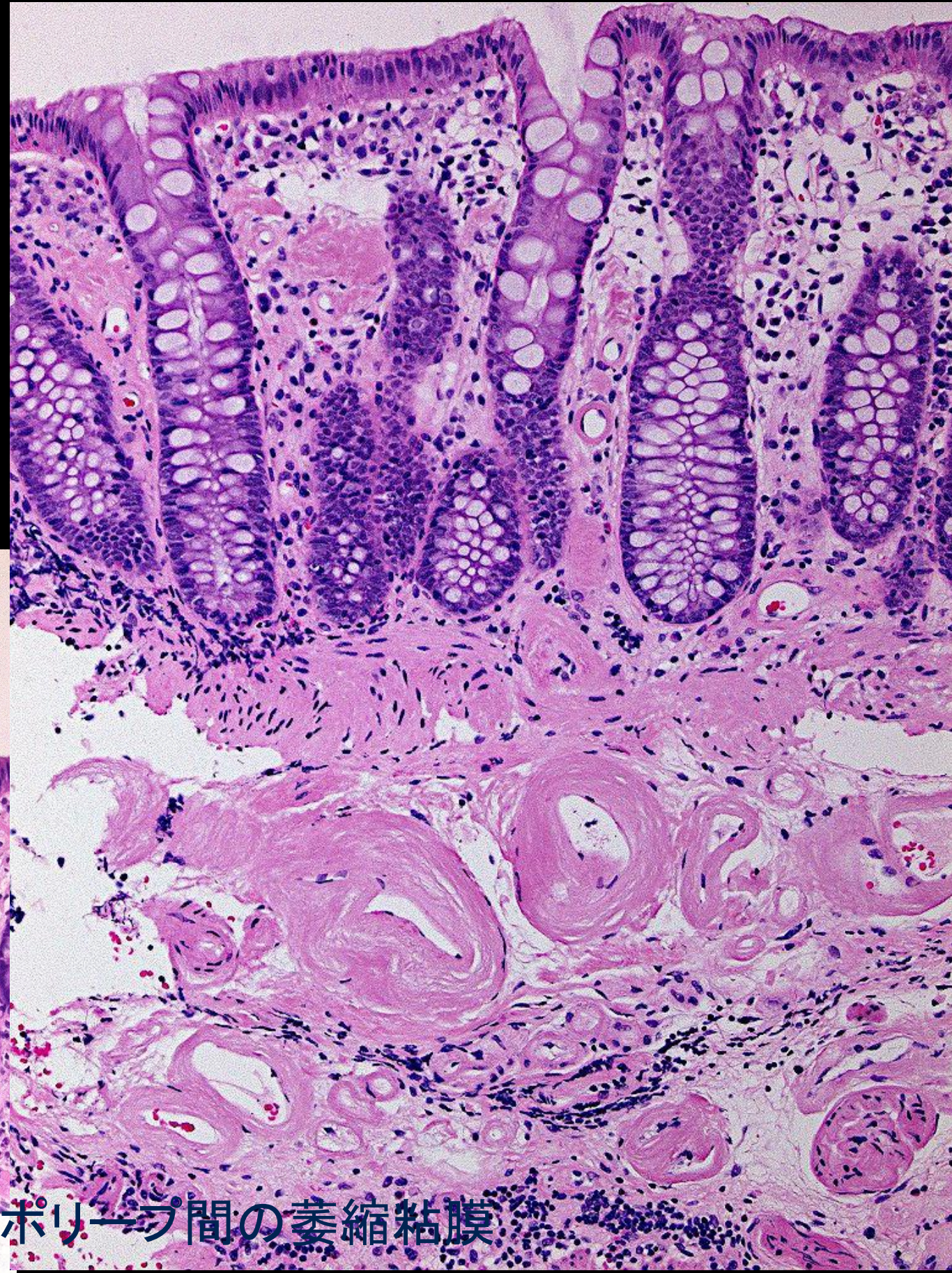
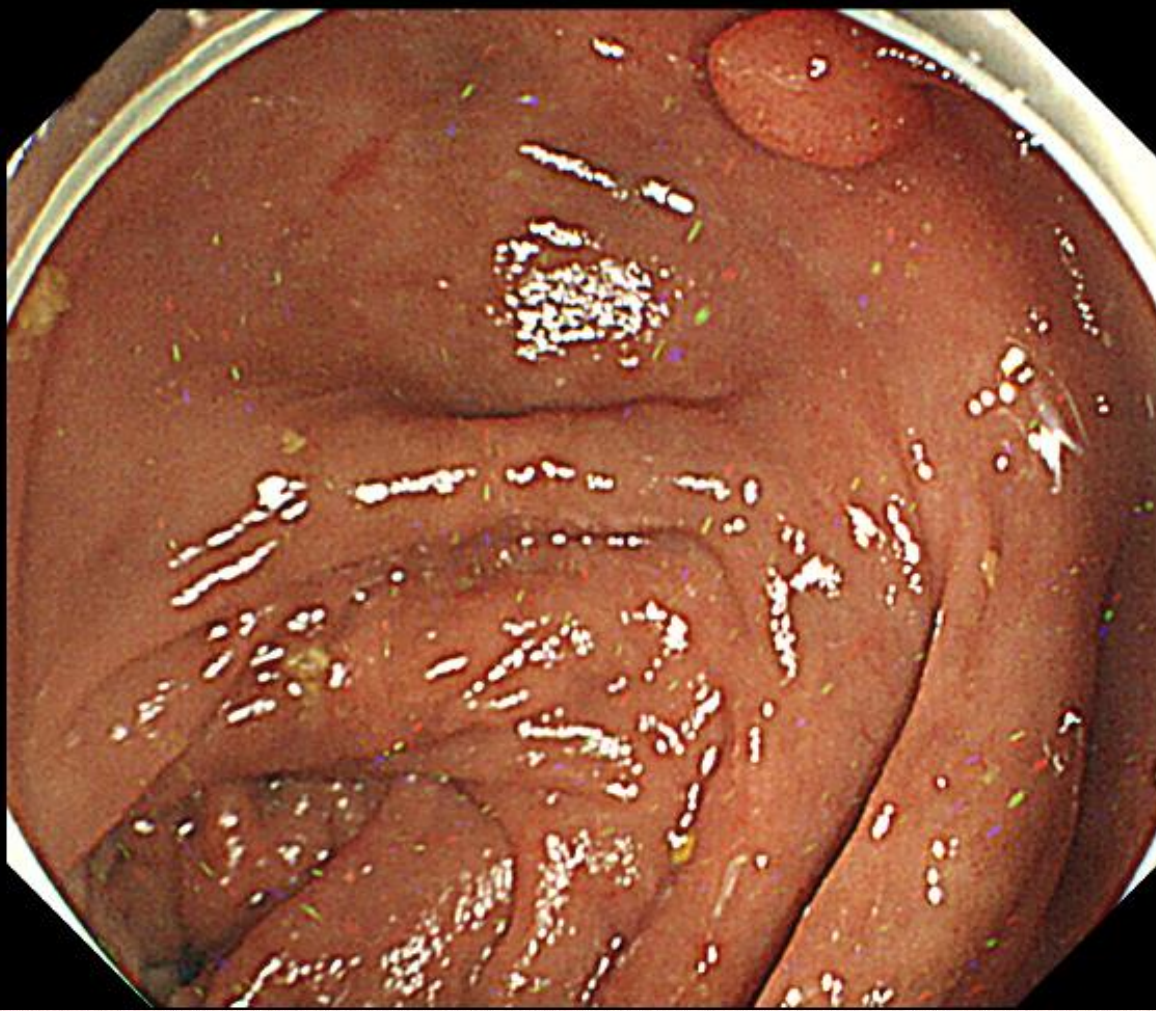
線維化・石灰化等の回復には長期間が必要



70歳代 男性

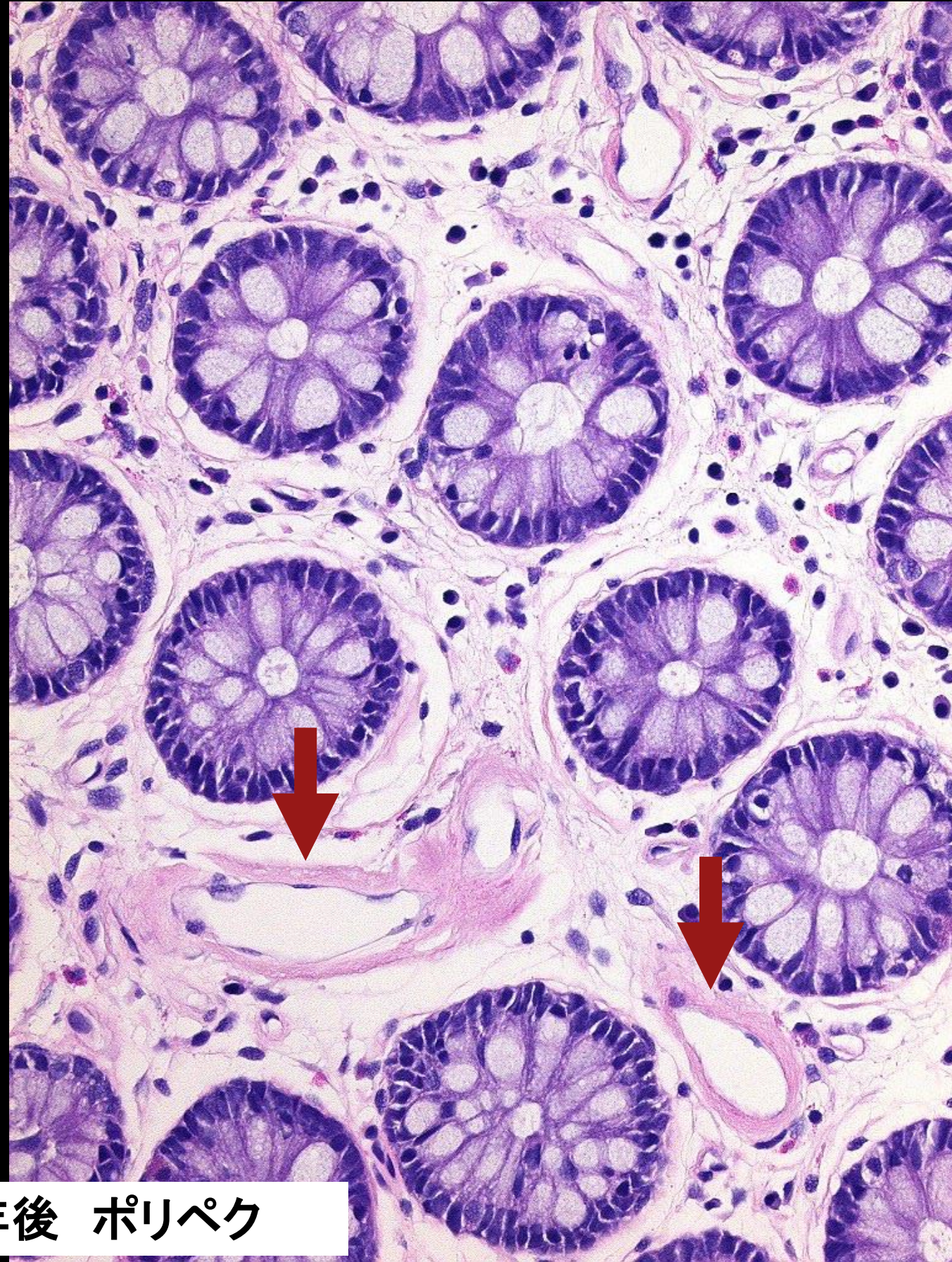
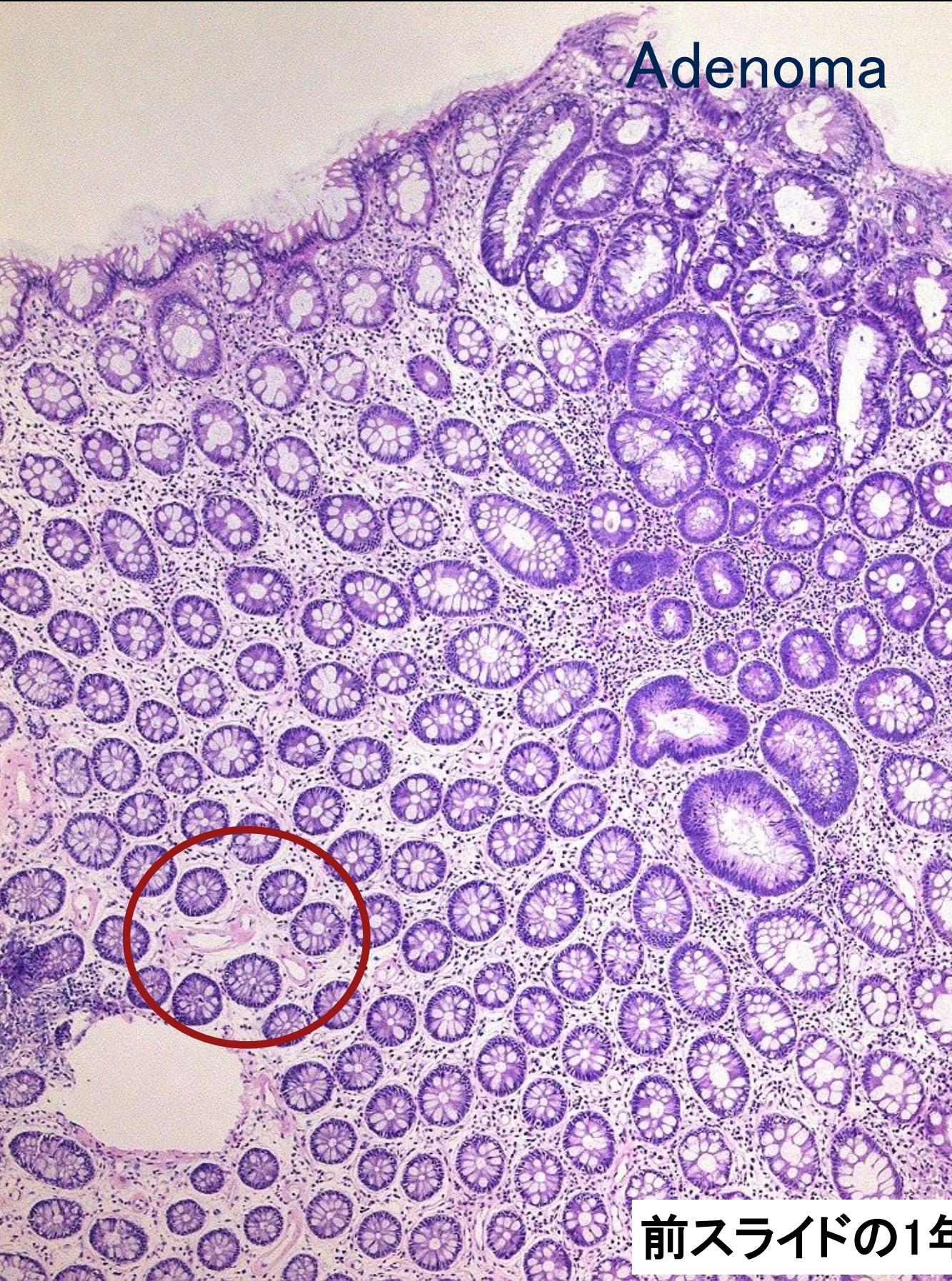


60歳代 女性



便潜血(+) \rightarrow ポリープ切除例。ポリープ間の萎縮粘膜

Adenoma



前スライドの1年後 ポリペク